



ごあいさつ	2
<b>1   島根大学医学部地域医療支援学講座メンバー紹介</b>	4
<b>2   講座紹介</b>	5
<b>3   1年間のあゆみ</b>	6
1 学生教育	6
2 学生支援等	14
3 教育FD	24
4 地域医療交流サロンの取り組み	25
5 地域医療支援等	28
6 地域医療支援コーディネーター等への支援	31
7 ホームページ・広報誌等による情報発信	32
8 総合診療医育成ネットワーク	34
9 ワークライフバランス	39
<b>4   業績</b>	44
<b>5   写真で見る1年間</b>	47
<b>資料編</b>	57
おわりに	80



## ごあいさつ

島根大学医学部長 並河 徹

日頃より地域医療支援学講座の活動にご支援賜り、ありがとうございます。

このたび平成29年度報告書ができあがりまして、お届けいたします。お陰様で講座設置から8年が経過し、報告書をご覧くださいますとおわかりいただけると思いますが、着実に成果も挙がってきております。

地域支援学講座は、地域医療を支える人材の育成をミッションとする講座です。学生教育については、実際に地域医療の第一線でご活躍の方々を講師としてお招きして、入学間もない学生達が地域医療現場の生の声に触れる機会を設けたり、5、6年生で行う地域医療実習のお世話をしたりと、全学年を通じて学生がモチベーションを持って地域医療を学ぶことのできるカリキュラムを工夫していただいています。

学生教育もさることながら、当講座では、地域医療を目指す学生、研修医のサポートを重要な仕事と位置づけています。その意味では他に類をみないユニークな講座といえると思います。近年では、総合診療学講座や卒後臨床研修センターなどと連携しながら、総合診療医育成にも尽力いただいております。医学部スタッフがワークライフバランスの取れた働き方ができるよう、その支援にも取り組んでいただいております。

最近、総合医への期待が高まっており、そのような進路を目指す学生も増えてきているように感じます。島根大学医学部としては、地域医療への貢献を重要なミッションとして、このような学生の育成、支援にこれまで以上に取り組んでいきたいと考えます。地域医療支援学講座はその中で中心的な役割を果たす講座です。同講座の活動に対し、ご関係の皆さまのより一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



## ごあいさつ

島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 谷口 栄作

地域医療支援講座が設置されて8年が終わりました。「地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませながら、医師としてのキャリアアップと県内の医療機関で安心して働ける環境づくりを支援する」ために、今年も多くの取り組みをしました。

学生教育では1年次への「地域医療学」の講義、「長寿社会とくらし」の講義、「早期体験実習」、3年次では「講座配属」、5年次、6年次では臨床実習としての地域医療及び学外の関係医療機関での地域医療実習を行いました。それに加え、春・夏の休暇を利用した医療体験実習、参加者本人が企画する自主企画型地域医療実習（フレキシブル実習）等体験型の学習の機会をもちつつ、月一回の地域医療セミナーを開催する等、地域医療について学びの場を提供してきました。今後、分野別国際認証受審に向けて、地域医療教育をどのようにしていくかも大きな課題になっており、集中的に議論する必要が出てきています。

またキャリア教育として、月1回程度、学内外の先輩の話を聞くランチョンセミナーを開催しました。さらに地域枠等の学生に対しては、個別面談、学年別集会、全体集会等を行い、さらに市町村の協力により、出身地域毎に地域別集会を開催し、学生と色々な形で交流を持つことができました。

毎年卒業生も増え、キャリアに関する個別面談も、島根地域医療支援センターの連携を図りながら実施しており、相談も年々増加傾向にあります。

研究分野では、地域医療従事者確保に関する研究、地域医療を支える住民組織に関する研究、医師のワークライフバランスに関する研究、救急救命に関する研究、地域での栄養実態の把握に関する研究、医学生の卒後進路に関する研究等教室に関係する分野での研究を幅広く実施し、学会や学会誌などで発表しました。

さらに地域医療を守り育てようとする住民組織の交流の場、学びの場としてのワークショップ等の開催にも協力してきました。これらの取り組みを通じて、地域医療は医療従事者だけでなく、地域全体で支えていくものだという認識が、浸透してきています。

これらの取り組みは、学内関係者をはじめ、島根県、市町村、県内医療機関、さらには全国の多くの皆さんの御支援をいただきながら、取り組んできたものです。

最後に、来年も講座の取り組みをさらに充実したものにしたいと考えておりますので、今まで以上に多くの御支援をいただきますようお願いいたします。

# 1

## 島根大学医学部 地域医療支援学講座メンバー紹介

### 教 員

- 教 授 谷口 栄作 (平成22年4月～)
- 准教授 佐野 千晶 (平成28年3月～)
- 助 教 布野 慶人 (平成29年4月～)
- 特任助教 吉岡みち子 (平成22年4月～)
- 特任助教 中畑 典子 (平成26年10月～)

### 事務職員

- 事務補佐員 高橋 菜穂 (平成27年7月～平成29年8月)
- 事務補佐員 吾郷 倫子 (平成27年11月～平成29年5月)
- 事務補佐員 岡田 幸恵 (平成28年6月～平成29年5月)
- 事務補佐員 梶木加奈子 (平成29年6月～平成30年2月)
- 事務補佐員 澤田 悠里 (平成29年12月～)

# 2 | 講座紹介

当講座は、地域医療教育学講座、地域医療政策学講座、総合医療学講座、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして島根県や市町村、しまね地域医療支援センター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図りながら、「学生が、地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませるため、また医師としてのキャリアアップと県内で安心して働ける環境づくりを支援する」ために、以下の様な取り組みに関わっています。

## 1) 医学科学生教育

### 【正課】

- ・ 1年生：早期体験実習【必修】 地域医療学講義【必修】 長寿社会と健康な暮らし【選択】
- ・ 3年生：講座配属
- ・ 4年生：キャリア教育
- ・ 5年生：臨床実習（地域医療・総合医療）【必修】 臨床実習（地域医療実習）【必修】
- ・ 6年生：臨床実習（地域医療実習）【選択】

通年：夏季・春季地域医療実習（地域医療体験実習Ⅰ）【自由】

自主企画型地域医療実習（地域医療体験実習Ⅱ）【自由】

### 【正課外の活動】

- 地域医療セミナー（10回程度／年）
- ランチョンセミナー（10回程度／年）
- ビデオセミナー（毎週）
- 総合診療ワークショップの開催（年2回）
- 学生の面談、学生と地域との交流支援
- 地域医療交流サロンの取り組み等

## 2) 医師のキャリア支援活動

- 地域枠医師、奨学金貸与医師、その他希望者を対象にしたキャリア支援
- 総合診療医育成支援
- しまね地域医療支援センター理事及び専任医師（教授、准教授）
- 1ターンを含む県内医師のキャリア支援

## 3) 地域医療支援

- 地域医療システムマネジメント支援
- ワークライフバランス支援（復職支援を含む）
- 地域医療を支える住民活動支援
- 地域医療コーディネータ支援
- 地域医療研究会

# 3 | 1年間のあゆみ

## 1 学生教育

### 1) 早期体験実習

平成25年から1年次の9月に早期体験実習を島根大学附属病院で行っている。1年生という早い学年から医療の現場に触れると同時に、5年生や6年生が臨床実習を行っている姿を見ることで教養や基礎医学へのモチベーションを上げることを目的にしている。

#### ①事前学習

医の倫理、マナーコミュニケーション、医療安全・感染対策、個人情報保護、医療情報検索

#### ②医療体験実習

附属病院各診療科での実習、BLS

#### ③報告会

実習グループによるグループワークと発表会

### 2) 地域医療学

平成28年度から医学科1年生を対象にした地域医療学の授業が開講になった。この授業は、地域医療教育学と当講座が共同でコーディネートしている。

内容は、学内の教員や県内で精力的に取り組んでいる外部講師が地域医療について、中山間地、離島の状況、多職種連携、地域住民・患者の立場から、行政や社会情勢、公衆衛生等様々な角度から講義を行い、その後テーマに応じてグループワークを行い、テーマごとに発表する。

#### 平成29年度 地域医療学授業日程

回	月日	時間	場所	授業内容	担当
1	10月2日(月)	14:30～16:00	L3番	*高齢社会と地域医療	杉谷
2	10月16日(月)	14:30～16:00	//	*中山間地の地域医療Ⅰ	阿部
3	10月23日(月)	14:30～16:00	//	*離島の地域医療	白石
4	10月30日(月)	14:30～16:00	//	*多職種連携と地域医療	熊倉・谷口
5	11月6日(月)	14:30～16:00	//	*中山間地の地域医療Ⅱ	長坂
6	11月13日(月)	14:30～16:00	//	*市街地の地域医療	杉浦
7	11月20日(月)	14:30～16:00	//	*地域住民・患者と地域医療	熊倉・谷口
8	11月27日(月)	14:30～16:00	//	地域医療とは	谷口
9	12月4日(月)	14:30～16:00	//	発表テーマの決定、グループワーク	熊倉・谷口
10	12月4日(月)	16:15～17:45	//	発表テーマの決定、グループワーク	熊倉・谷口
11	12月11日(月)	14:30～16:00	//	*公衆衛生行政と地域医療	村下

回	月日	時間	場所	授業内容	担当
12	12月18日(月)	14:30～16:00	L 3 番	*医療崩壊と再生	石原
13	1月15日(月)	14:30～16:00	//	海外の地域医療	熊倉
14	1月22日(月)	14:30～16:00	//	発表会	熊倉・谷口
15	1月22日(月)	16:15～17:45	//	発表会	熊倉・谷口

\*外部講師



### 3) 長寿社会の健康なくらし

本講義は以前から、松江キャンパス開講講座としてあった。去年度から出雲キャンパス開講（松江キャンパス遠隔講義）として、リニューアルし、当講座が担当している。本講義では、医学部の各専門分野の教員が、長寿社会における健康問題に関して、身体と心の両面からアプローチする。

#### 平成29年度 「長寿社会の健康なくらし」 授業日程表

	月日	時間	担当	タイトル
1	10月6日(金)	14:30～16:00	関根浄治教授	お口の病気の見つけ方
2	10月13日(金)	14:30～16:00	関根浄治教授	お口の病気の見つけ方
3	10月20日(金)	14:30～16:00	竹下治男教授	法医学から考える長寿社会の健康な暮らし
4	10月27日(金)	14:30～16:00	小林裕太特任教授	老化の生物学
5	10月31日(火)	14:30～16:00	京 哲教授	更年期からの輝き
6	11月10日(金)	14:30～16:00	佐野千晶准教授	WLB & ヘルスプロモーション
7	11月17日(金)	14:30～16:00	原田 守教授	健康で長生きするために必要な免疫力
8	11月24日(金)	14:30～16:00	吉山裕規教授	感染症から身を守る
9	12月1日(金)	14:30～16:00	岩田 淳教授	ニュージーランドにおける暮らしと健康
10	12月8日(金)	14:30～16:00	長井 篤教授	漢方医学の健康観
11	12月15日(金)	14:30～16:00	磯部 威教授	健康長寿のための「肺」の話
12	12月22日(金)	14:30～16:00	谷口栄作教授	長寿社会における地域医療





	月日	時間	担当	タイトル
13	1月5日(金)	14:30～16:00	山口修平教授	老化と認知症
14	1月19日(金)	14:30～16:00	廣瀬昌博教授	中・高齢者の感染症
15	1月26日(金)	14:30～16:00	松崎有未教授	長寿社会実現のための再生医療
16	2月2日(金)	14:30～16:00	神田秀幸教授	健康なくらしと社会



#### 4) 講座配属

島根大学医学部では3年次に、医学生自ら希望する講座で研究参加や臨床見学等を行うことができる講座配属を実施している。当講座は今年度1名の医学生を受け入れ、出雲地域の病病連携、病診連携、医療看護連携、医療福祉連携等を知り、病院前後の救急医療連携や感染症発生時対応について学んだりして、それらをより良く推進する医療政策についての理解を深める学習を提供した。

【日 時】平成29年(前半)9月25日(月)～10月27日(金)

【参加者】島根大学医学部医学科3年生 計1名

【内 容】

- 地域医療連携・感染症管理
- 医療福祉連携マネジメントプログラム
- 医療政策・感染症管理プログラム
- 救急医療連携
- 救命救急教育
- 病院前後の救急医療連携についての学習

【指導方針】

- ・出雲の地域医療の現状を通じて、日本の地域医療の現状を学ぶ。
- ・出雲地域の病病連携、病診連携、医療看護連携、医療福祉連携等を講義、自習、実習を通じて学び、さらにそれらをよりよく推進する医療政策について理解を深める。
- ・感染症発生時の対応について学ぶ。
- ・医学教育、地域医療教育に関する調査や分析に参加する。
- ・病院前後の救急医療連携について学ぶ。BLS等の実習を行うとともに、その訓練にも参加する。

【医療実習協力機関】

出雲保健所、出雲リハビリテーション病院、斐川訪問看護ステーションさくら、深田医院、出雲市消防



本部、島根大学医学部附属病院ほっとサロン、島根大学医学部附属病院地域医療連携センター（順不同）

## 5) キャリア教育（男女共同参画講義）

4年次を対象とし、5コマの男女共同参画講義（キャリア教育）を行っている。本講義は島根県医師会と連携しながら実施している。

【日 時】平成30年3月1日（木）9：40～16：10

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【参加者】医学部医学科4年生

【内 容】①「キャリアについて考える」

グループワークテーマ「妻の海外留学について」

【まとめの講義】

秋田大学医学部総合地域医療推進学講座 准教授 蓮沼直子氏

②キャリアモデルの紹介

島根大学医学部 消化器内科 医科医員 沖本英子 氏

島根大学医学部 腎臓内科 講師 伊藤孝史 氏

島根大学医学部 器官病理学 講師 荒木亜寿香 氏

③島根大学男女共同参画の取り組み

島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当） 河野美江 氏

④島根県「えんネット」の取り組み

島根大学医学部地域医療支援学講座 准教授 佐野千晶 氏

【医師会講演会】

「日本医師会の女性医師支援等の取り組み」

日本医師会 常任理事 今村定臣 氏



## 6) 臨床実習（地域医療・総合医療）

平成24年度より、地域医療教育学講座、総合医療学講座、地域医療政策学講座、卒後臨床研修センターと当講座の教員により、プライマリ・ケアに必要な能力を習得するために5年次の臨床実習の一部を担当している。

当講座では最初のオリエンテーションに続いて、地域医療連携演習として、病診連携・病病連携、医療介護連携、医療と関係施設との連携について、ケースメソッドによる教育を行っている。1週間の総括についても、分担して担当している。



## ■平成29年度 典型的スケジュール

		午 前		午 後	
		集合	担当教員	集合	担当教員
月	9:00	オリエンテーション 地域医療演習 みらいラウンジ	谷口・佐野 地域医療 支援学	13:30	臨床推論 みらいラウンジ 鬼形 卒後臨床研修 センター
火	8:20	診療所実習 (2名)	羽根田	14:00	総合医療学実習 (シミュレータ実習) スキルアップセンター 山形 大田総合医 育成センター
水	7:30	早朝セミナー 初期研修医室	石橋・鬼形	14:00	乙立診療所実習 (2名) 内科学第一教員
	8:30	医療面接講義 (総合医療学医局)	石橋・木島 総合医療学		診療所実習(3名) 渡辺
	10:00	(10:00) 総合診療外来実習 (外科外来) (2名)			14:00
木	9:30	総合医療学実習 (シミュレータ実習) スキルアップセンター	野宗 大田総合医育成 センター	13:30	総合医療学実習 (シミュレータ実習) (上記以外の学生) 内視鏡手術 トレーニングセンター 黒河内 大田総合医 育成センター
					14:00
金		診療所実習 (4診療所 各1名)	杉浦、手納、 宮本、遠藤、 奥野	14:00	総合医療学実習 (シミュレータ実習) (上記以外の学生/16:00終了) スキルアップセンター 本田 大田総合医 育成センター
					17:00

## 7) 臨床実習（地域医療実習）

プライマリ・ケアの近接性、包括性、継続性、協調性、責任性を学ぶために、また大学附属病院では見ることができない医療の姿を経験するために、5年次・6年次の地域医療実習を行っている。

県内中山間地を中心にして50弱の医療機関に協力していただき、これらの医療機関で5年次後半には2週間必修で、小規模医療施設、中規模医療施設をバランスよく臨床実習を行う。また6年生になると選択科目として、前述の医療機関に松江出雲圏域の20程度の施設を加えた、約70の医療施設の中から選択して臨床実習を行っている。4週間以上、希望により何週間でも可能である。また平成26年度からは地域医療機関に保健所も加え、地域保健に興味を持つ学生を受け入れている。平成29年度は5年生109名、6年生113名が保健所実習を行った。

## 8) 夏季・春季地域医療体験実習（地域医療体験実習Ⅰ）

島根大学医学部では島根県と連携して、地域の医療機関での活動や連携を体験・学習し、地域医療や公衆衛生業務に対する理解を深めることを目的と知る春季・夏季地域医療実習を行っている。最近では県内の病院企画型、市町村企画型、地域から学生へ発信する企画も増えている。

また医師に密着し、医師の生活を体感する医師密着型の実習も行い、「自分の将来像が描けた」「医師という職業のみでなく、医師の生活の実際も聞けた」と学生からは好評であった。

### ■平成29年度夏季地域医療実習

【期間】平成29年8月15日（火）～18日（金）

8月23日（水）～8月25日（金）（隠岐島前地域のみ）

実施機関	地区等	日程	参加人数
松江保健所	松江	8月15日(火)～17日(木)	2
雲南保健所	雲南	8月15日(火)～17日(木)	5
出雲保健所	出雲	8月15日(火)～17日(木)	2
県央保健所	県央	8月15日(火)～17日(木)	4
浜田保健所	浜田	8月15日(火)～17日(木)	5
益田保健所	益田	8月15日(火)～17日(木)	2
隠岐保健所	島後	8月15日(火)～17日(木)	5
	島前	8月23日(水)～25日(金)	4

計29名

#### 学年別内訳

1年	2年	3年	4年
15名	6名	3名	4名

#### 大学別内訳

島根大学	自治医科大学	鳥取大学
17名	11名	1名

**■夏季地域医療実習意見交換会**

【日 時】平成29年8月18日（金）11：00～14：15

【場 所】島根大学医学部講義棟1F国際交流ラウンジ

【参加者】医学生18名、保健所・病院・大学関係者7名

【概 要】今回の報告会は実習参加者が交流を深めながら島根の地域医療について意見交換してもらうことを目的にワールドカフェ形式で行った。「実習で一番印象に残った体験」「島根の地域医療の良いところ・課題」「島根の地域医療の改善策は？」をテーマに活発に意見交換が行われた。テーマごとにグループを変更し、様々な圏域に行った学生同士の親睦も深めることができた。

**■平成29年度春季地域医療実習**

【期間】平成30年3月5日（月）～9日（金） ※9日は意見交換会

実施機関	地区等	日 程	参加人数
松江保健所	松江	3月5日(月)～7日(水)	2
雲南保健所	雲南	3月6日(火)～8日(木)	5
出雲保健所	出雲	3月6日(火)～8日(木)	3
県央保健所	県央	3月5日(月)～7日(水)	1
浜田保健所	浜田	3月6日(火)～8日(木)	5
益田保健所	益田	3月6日(火)～8日(木)	3
隠岐保健所	島後	3月6日(火)～8日(木)	5
	島前	3月5日(月)～7日(水)	5

計29名

**学年別内訳**

1年	2年	4年
16名	12名	1名

**大学別内訳**

島根大学	鳥取大学
28名	1名

**■春季地域医療実習報告会**

【日 時】平成30年3月9日（金）10：00～14：00

【場 所】島根大学医学部講義棟国際交流ラウンジ

【参加者】37名

【概 要】実習に参加した医学生、またご協力いただいた医療機関等関係者の方々にもお越しいたごき、春季地域医療実習報告会を開催した。「実習で一番印象に残った体験」「島根の地域医療の良いところ・課題」「島根の地域医療の改善策」のテーマでグループワークを行った。経験したことを振り返ることにより今後のモチベーションに繋がることを期待している。

## 9) フレキシブル実習（地域医療体験実習Ⅱ）

### （1）平成28年度春季フレキシブル・平成29年プライマリケア学会報告会

【日 時】平成29年5月23日（火）18：00～

【場 所】島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンスⅠ

【参加者】計11名（学生6名、他5名）

【概 要】28年度の後期にフレキシブル実習に参加した5名の学生と、平成29年5/13～5/14 香川県高松市にて開催された日本プライマリケア連合学会学術大会に発表・参加した学生を対象に報告会を合同で開催した。参加した学生の満足度はとても高く、時間が足りなくなるほど白熱したディスカッションになった。参加した学生からは、様々な機会を逃さずに積極的に参加していくことで、より多く学ぶことができ、モチベーションを高く保つことができるのではないかと意見を聞くことができた。

#### 【平成28年度春季フレキシブル実習協力機関】

浜田医療センター、国立病院機構災害医療センター福島復興支援室、雄鹿原診療所、あさひ診療所等  
（順不同）

参加者12名

### （2）平成29年度夏季フレキシブル実習報告会

【日 時】平成29年10月4日（水）16：30～17：25

【場 所】島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンスⅠ

【参加者】計14名（学生9名、支援学講座5名）

【概 要】前期にフレキシブル実習、夏季地域医療体験実習に参加した9名の学生による報告会を開催した。地域での様々な経験により、学生からは「実際に地域医療で働く先輩医師の姿を見ることで自分の今後を具体的にイメージすることができ、大学では学べない貴重な経験を積むことができた」との意見があった。県内外の地域でそれぞれ活躍されている先生方の元で実習し地域医療を支える医師像についても、それぞれの思いを活発に意見交換した。

#### 【平成29年度夏季フレキシブル実習協力機関】

雲南市立病院

参加者：1名





## 2 学生支援等

### 1) 地域医療セミナー

平成29年度は下記の地域医療セミナーを学内にて開催した。

#### ■第1回地域医療セミナー

【テーマ】 激熱 !! 地域医療

【日 時】 平成29年4月26日（水） 18：00～19：30

【場 所】 島根大学医学部みらい棟 2F共通カンファレンス I

【講 師】 飯南町立飯南病院 院長 角田耕紀 氏

【参加者】 計34名

【概 要】 飯南町の高齢化率は43.3%と島根県内でもトップを走り、高齢化のピークは越えつつあること、これからの医療の使命はQOLの向上であり「癒し支える医療、よりよく生きる、総合的対応力」が鍵になることを話していただいた。このフィールドだから経験できること、このフィールドでしか経験できないことがあるので、「総合」を合言葉に医師がリーダーシップをとって、医療、行政、福祉が多職種連携することで、将来の町づくりにも繋がり、ひいては将来の日本のモデルになり得ることを熱く語っていただいた。学生からは「総合医になりたいという気持ちをより強めることが出来ました」「柔軟性の高い医師になりたいです」「小さな病院で学ぶメリットが分かり、大学で学べないことを経験してみたいと思いました」といった感想が寄せられた。

#### ■第2回地域医療セミナー

【テーマ】 介護保険活用術 最近の相談事例の傾向より

【日 時】 平成29年6月20日（火） 18：00～19：30

【場 所】 島根大学医学部みらい棟 2F共通カンファレンス I

【講 師】 松江市社会福祉協議会湖南地域包括支援センター 社会福祉士 三原佳代子 氏

【参加者】 計23名

【概 要】 地域包括支援センターに寄せられる相談の8割は、介護保険制度に関するものであるが、家族による高齢者虐待への介入、年金支給日に急増する詐欺被害等への対応など広範囲かつエネルギーを必要とする事例が増えていることについて話していただいた。また、特定疾患が原因で介護が必要となった40-50代の患者のための、心のケアができるショートステイ先の必要性についても興味深い話を聞くことができた。学生からは「現場には介護保険の盲点をついた問題があり、その制度に該当しなかった場合の患者さんの苦しさが伝わってきた」「医療と介護の連携を迅速に橋渡しするために、多職種でチームを組みお互いの仕事内容や退院に向けて必要なことを共有する必要があると思った」などの感想が寄せられた。

#### ■第3回地域医療セミナー

【テーマ】 川本町における在宅医療の現状と課題

【日 時】 平成29年7月12日（水） 18：00～19：30

【場 所】 島根大学医学部みらい棟 4Fギャラクシー

【講師】加藤病院 神経内科 山口拓也 氏

【参加者】計17名

【概要】川本町の加藤病院の山口拓也医師をお招きし、地域医療セミナーを行いました。在宅医療を実践され、患者さんおひとりおひとりに、きめ細やかなカンファレンス等に対応されていました。学生からは、「地域住民が、学生による地域医療への取り組みで希望されていることはどんなことがありますか」「患者さんに寄り添う医師って、どんな医師のことをいうのですか」といった質問がありました。

#### ■第4回地域医療セミナー

【テーマ】地域の小規模多機能病院の未来

【日時】平成29年9月22日（金）18：00～19：30

【場所】島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー

【講師】宮城県気仙沼市立本吉病院 院長 斎藤稔哲 氏

【参加者】計16名

【概要】小規模医療機関は、余命3カ月～1年の人がハッピーに過ごせるための支えとなり、残りの人生を調整する役割を担っていること。食事に力を入れることで、入院前に訪問診療していた85～90%の患者が在宅に復帰でき、成果をあげていることを紹介いただいた。

また、訪れる主訴のない患者さんの5年後、10年後の生活を想像しながら、健康の障害となりえる「種」がないか患者さんと一緒に探し、「種」が芽をだし、成長しないように患者さんと一緒に生活を含めて考えていく作業が大切であり、「今困っていない人に、困らないように一緒に取り組むことも重要」と予防の大切さについて語っていただいた。新たな試みとして、昨年より島前病院の白石先生から教わった肩峰下滑液包への注射による疼痛管理が本吉病院外来にも導入され、効果を上げていることが紹介された。

#### ■第5回地域医療セミナー

【テーマ】コミュニケーション・摂食嚥下について考えてみよう～言語聴覚士の仕事～

【日時】平成29年10月27日（金）18：00～19：30

【場所】島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンスⅠ

【講師】介護老人保健施設 寿生苑 言語聴覚士 矢野彩子 氏

【参加者】計13名

【概要】リハビリテーションとは失った機能を回復させることだけではなく、「生活の質、人生の質を上げて行けるようには働きかけること」であり、その一端を言語聴覚士が担っていることを紹介していただいた。「おいしく食べることは、よりよく生きること」そのものであり、高齢者の生活の質を維持するために「摂食嚥下障害に気づく・見つける」ことは、重要であることを話していただいた。また、失語症患者さんの置かれた状況、パーキンソン病による嚥下障害について事例を交えてわかりやすく説明していただいた。島根県内には現在150名の言語聴覚士が働いているが、高齢者の多い島根では充足しているとは言えず、もっと多くの老健施設に配属されることにより、誤嚥性による肺炎の死亡を減らせる可能性があるとの現場の声を聞かせていただいた。





### ■第6回地域医療セミナー

【テーマ】医師のキャリアと地域医療 ー私の経験を通じてー

【日時】平成29年11月24日（金）18：00～19：30

【場所】島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー

【講師】奥出雲病院 院長 鈴木賢二氏

【参加者】計19名

【概要】外来診療から入院や手術、在宅医療まで患者を幅広く全体を見ることができるコンパクトな病院の良さについてお話しいただきました。キャリアを積んできた中で、ラパコレを最前線で行ったこと、ICDを実践してきたこと、がん化学療法に取り組んできたこと、病院経営管理士を学ぶ身の院長としての現在について伺うことができました。1つの事象にとらわれることなく興味の持ちようで広がりが増えてくる。自分は何をしたいか、も大事だが、何を求められているかはもっと大事である。その求めに従って地域医療に貢献できたら幸せだと思うとまとめられました。魅力ある言葉でした。

### ■第7回地域医療セミナー

【テーマ】大規模病院における総合診療の魅力

【日時】平成29年12月15日（金）18：00～19：30

【場所】島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンスⅠ

【講師】県立中央病院 総合診療科部長 増野純二氏

【参加者】計16名

【概要】患者さんを全人的に総合的に診ることを目的とし、中央病院で行われている総合診療科の実際についてお話いただいた。実際の診療現場での事例を取り上げ、ドクターGさながらの講演でした。

### ■第8回地域医療セミナー

【テーマ】生活を診る～作業療法のスペシャリストが熱く語る高齢者や障害者の支え方～

【日時】平成30年1月23日（火）18：00～19：30

【場所】島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンスⅠ

【講師】島根大学医学部附属病院リハビリテーション部主任作業療法士 森脇繁登氏

【参加者】計11名

【概要】人の生活において、「生きる」ためにリハビリテーションを行うお話を伺いました。「作業」は社会との「接点」であり、作業療法士は、社会とのつながりを「作業」を通じて創造する手助けをする役割を担っている。病気の急性期・回復期や高齢者に対して「ヒト」と「モノ」を適合させて、その人らしい生活を獲得していく実際について熱く語られ、興味深く伺いました。医療において多職種連携は欠かせない。対象の「人」への支援に関わるあらゆる職種の役割を理解し、お互いに知恵を出し合い支援できれば良いなと改めて感じました。

## ■第9回地域医療セミナー

【テーマ】津和野町における総合診療の魅力

【日時】平成30年2月16日（金）18：00～19：30

【場所】島根大学医学部講義棟1F国際交流ラウンジ

【講師】津和野共存病院 副院長 飯島献一先生

【参加者】計16名

【概要】講師は津和野共存病院 副院長 飯島献一先生でした。情緒あふれる山陰の小京都で、地域に根差した総合診療に携わる魅力を語っていただきました。津和野町における総合診療の魅力について、同町の歴史等を踏まえながらお話をいただきました。また、学生からの質問もあり、活発にディスカッションを行われました。

## 2) ランチョンセミナー

平成29年度は下記のランチョンセミナーを学内にて開催した。

### ■第1回ランチョンセミナー

【実施日】平成29年4月19日（水）

【場所】島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンスI

【講師】島根大学医学部附属病院 放射線部 助教 山本伸子氏

【参加者】計33名

【概要】「学生に伝えたいこと。先輩からのメッセージ」をテーマに、医師としてどのように歩んでこられたのかをお話しいただきました。

結婚・出産というライフイベントと自身のキャリアアップについて、仕事と家庭の両立をどのようにしてこられたのかを具体的にお話しいただきました。

また、診療科を選んだ理由や仕事内容についても、伝えていただきました。

最後に「心身ともに健康であること」、「興味の持てること、好きなことを選択すると楽しく仕事ができること」など学生へメッセージを伝えてくださいました。

学生さんからは「大学卒業後の仕事や生活の様子を先生の体験に基づいて具体的にイメージできた」、「今後の進路選択においてとても役に立った」との声が聞かれました。

### ■第2回ランチョンセミナー

【実施日】平成29年5月25日（木）

【場所】島根大学医学部みらい棟1Fみらいラウンジ

【講師】島根大学医学部 消化器内科 講師 川島耕作氏

【参加者】計33名

【概要】「自分が医師として果たすべき役割、「Life Work」を見つけましょう」をテーマに、医師としてどのように歩んでこられたのかをお話しいただきました。入局を決めるまでの道のり、研修医として勤務する中でご自身が感じた大学病院と一般病院の違い、都会と田舎の病院の違いをわかりやすくお伝えいただきました。どちらを選んでもメリット・デメリットが存在すること、できること、できないことがあるが、どんな環境でも、「今できることを精一杯やろう」、「与えられた環境でできる限りのことを



学ぼう」と熱いメッセージをいただきました。

### ■第3回ランチョンセミナー

【実施日】平成29年6月28日（水）

【場 所】島根大学医学部みらい棟 2F共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部附属病院 内分泌代謝内科 講師 金沢一平 氏

【参加者】計29名

【概 要】自分の夢・未来・理想をなりたい将来像として目標を持ち、キャリアを積み重ねて医師として歩んできたことをお話しいただきました。人とは違うことをしたい、という思いを胸に抱き、非常に積極的に仕事を楽しんでしていること、そして家庭での役割など、とても具体的な例を持ってわかりやすく、おもしろおかしくお話しいただき、笑いが溢れるシーンもありました。仕事と遊びの境界線はないと豪語する先生の姿に、学生さんもととても励まされていたように感じました。最後に、「人が歩んできた道の後ろを丁寧に歩いていくことも大事です。険しい道でも自分が歩きたい道を歩いてみるのもとても大事なことです」と激励をいただきました。

### ■第4回ランチョンセミナー

【実施日】平成29年7月18日（火）

【場 所】島根大学医学部みらい棟 2F共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部附属病院 検査部 助教 塩田由利 氏

【参加者】計20名

【概 要】神経内科医として、患者さんの全身所見から原因となる責任部位を推測する診療のおもしろさ、検査部での脳梗塞モデルのラットを用いた神経作用の研究等、仕事の様子を伝えていただきました。

女性医師のワークライフの観点から、本学卒業の同期女性医師の婚姻状況について、独自の視点から考察を交えてお話し下さいました。また、「妊娠・分娩に適切な年齢は20歳代、遅くとも35歳までに」という現実を考えると、専門医取得時期と適齢期が重なるため、女性が主導権を握って早期に結婚出産の計画を立てる必要性があること、また、女性医師の理想の夫像について、経験を踏まえて赤裸々に語っていただきました。

結婚、独身、結婚が途切れる等、様々な生き方があるけれど、女性医師としての生き方を貫いてほしいとメッセージをいただきました。

### ■第5回ランチョンセミナー

【実施日】平成29年9月28日（木）

【場 所】島根大学医学部みらい棟 1Fみらいラウンジ

【講 師】島根大学医学部 卒後臨床研修センター副センター長 岡崎四方 氏

【参加者】計21名

【概 要】小学校の卒業文集には「電車の運転手」と書いていたのに、いつから医師を目指すようになったのだろう？穏やかな家族団欒の時間と精神病患者さんとの異次元の世界を行き来する精神科医の父の背中をみているうちに、興味深い「このギャップ」に引き込まれたのかもしれないと医師になった理由をお話しいただきました。精神科の患者さんは厄介な存在として見られがちだが、生まれる時には皆と

同じく親に待ち焦がれられて誕生し、期待されて育ったり、輝いていた時期があったはず。「病気の人」という役割だけでなく、一生活者として様々な一面を我々と同じように持ち合わせていることを忘れないように接しているとお話し下さいました。ゆっくりと着実に「必ずよいことになるよ」と根底で支えてくれる目薬（見守ってくれる眼差し）を持っていることは、強いことだ。誰かの目薬になるためには、自分自身が健康でなくてはならない。目薬の存在があってこそその日薬（時間薬）。岡崎先生のお話は、家族愛、患者愛に満ちていました。

### ■第6回ランチョンセミナー

【実施日】平成29年10月18日（水）

【場 所】島根大学医学部みらい棟 2F共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部 環境保健医学講座 助教 佐藤利栄 氏

【参加者】計25名

【概 要】「This is me.」学生時代から海外に目を向け、世界医学生連盟への参加やアジア医学生連盟東京大会では、実行委員として、活動された経験を話していただきました。また、日本に留まっていたは考えることがないことを考える貴重な体験となったフィリピンの貧困地での母親意識調査、ザンビアでの安全な水の確保の難しさに直面したこと、英国での臨床留学等を紹介いただきました。「出雲が、東京が、日本が、セカイのすべてではない、世界を知ってほしい」と熱いエールをいただきました。

5年間の臨床経験の中では、糖尿病、高血圧、虚血性心疾患等、予防できる病気で運ばれる患者の多さを目の当たりにし、予防の重要性を感じたことがきっかけで、公衆衛生の道に進むことになったそうです。

「Open Mindでという言葉が印象に残りました」、「相手に心を開いてもらうためには、まず、自分の心を開くという姿勢を見せなくてはならないといわれ、確かにその通りだと納得しました」といった感想が学生から寄せられました。

### ■第7回ランチョンセミナー

【実施日】平成29年11月9日（木）

【場 所】島根大学医学部みらい棟 2F共通カンファレンス I

【講 師】厚生省医政局 地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室  
病床機能報告分析支援専門官 伴 正海 氏

【参加者】計42名

【概 要】「医学生がこれだけは知っておきたい政策とキャリア～これからの医師のキャリアパスはこう変わる～」これまでの医師は病院で働くのが一般的であったが、これからの医師は地域完結型医療の担い手として、患者の日常生活や地域に根差した町づくりの視点も備えておく必要があることを伝えていただきました。医療政策は国ではなく、都道府県、市町村が主導し方向性を決定すること、急速な高齢化に仕組みが追いついていないことを解説していただいた後、今後は総合診療医の需要が高まること、今後の地域医療のエッセンスを語っていただきました。医療現場が生き生きとする仕組みづくりをしたいとの志から厚生労働省の医官の道をすすまれた経緯から、学生に「まずは行動してから考えること」、その結果、次の道が開けるとのエールを送っていただきました。ライフワーク＝ライスワーク（食べていくための仕事）とすることで楽しくやりがいのある仕事につながるとのアドバイスをいただきました。



卒業を間近な6年生から多くの質問が寄せられました。

### ■第8回ランチョンセミナー

【実施日】平成29年12月18日（月）

【場 所】島根大学医学部みらい棟 2F共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部 腎臓内科学講座 後期研修医 藤井俊吾 氏

【参加者】計19名

【概 要】医学部の地域枠推薦3期生として本学に入学され、卒業後は島根大学附属病院の初期臨床研修制度の下、2年間のうち5カ月間を県外の病院で研修を受けたこと、また、後期研修に入ってから本学の総合診療プログラムの下、腎臓専門医・透析専門医を目指しながら、学生時代からのライフワークである公衆衛生活動にも力を入れておられることについて話していただきました。

地域枠学生にとって、義務年限と奨学金のことは頭から離れないことであるが、地域枠入学だったことが将来のことを具体的に考えるきっかけにもなり、学生の頃から出身地域の行政担当者や大学の地域関係の教官といった大人と関わることが多く、それが後に医者になってから迷った時、困った時の相談相手となってきていること。また、診療科を選択する時は運命を感じた講座がなければ、誘って下さった先生の講座に入るのもご縁。何をするにも仲間・友人が大事、学生時代からの縦横の繋がりを大切にしてほしいとメッセージをいただきました。

### ■第9回ランチョンセミナー

【実施日】平成30年1月22日（月）

【場 所】島根大学医学部みらい棟 2F共通カンファレンス I

【講 師】島根大学医学部 眼科学講座 助教 原 克典 氏

【参加者】計18名

【概 要】文化人類学を専攻され、東南アジアに1年間滞在され、また、東京で4年間営業として社会人を経験された後、29歳で本学に入学され、現在8年目の医師として眼科の病棟医長として勤務されています。眼科医は目安として、約3年修行すると1人で白内障の手術ができるようになるそうです。新たな取り組みとして、3歳児検診に精度の高い弱視検出用の機械の導入し、まるでカメラで写真を撮るような形でほんの数秒の検査時間で弱視の可能性のある子どもをスクリーニングすることができるようになったそうです。また、高齢で視力が落ち、視野が狭くなった方を対象にロービジョン外来という新たな外来を立ち上げられ、患者の「新聞が読みたい」「趣味の教本を読みたい」といった要望に沿えるよう拡大読書機の普及につとめ、持ち運び型、据え置き型、スマホ型といった生活に最も適したタイプを患者さんと一緒に選ぶという取り組みを始められたそうです。

「人生必ず辛いことが起こるけれど、誰かに聞いてもらうだけで、また、前に進めるようになります」と人生について語っていただきました。

### 3) ビデオセミナー

学生に対して幅広く勉強する機会を増やすと共に、職員の医学知識のブラッシュアップも目的に、週1回昼休憩の12時から30分程の間、みらいラウンジにてビデオ上映をしている。

	上映日	シリーズ名	タイトル	講師
1	4月11日	こどものみかた(上)	トリアージのABC	茂木恒俊 医師 (飯塚病院 総合診療科) 児玉和彦 医師 (こだま小児科/和歌山生協病院)
2	4月18日		どうするの？夜間の急な発熱	
3	4月25日		あわてない！熱性けいれん	
4	5月9日	こどものみかた(下)	もう大丈夫！	土肥直樹 医師 (相模原市国民健康保険 内郷診療所 所長)
5	5月16日		これですっきり！嘔吐のみかた	
6	5月23日		子どもの腹痛 便秘と重症疾患の見極め	
7	6月6日	Dr.野原のナルホド！ 摂食・嚥下障害 マネジメント	キュアからケアへ！これからの摂食・嚥下マネジメント	野原幹司 氏 (大阪大学歯学部付属病院 顎口腔機能治療部)
8	6月13日		おじいちゃん、なんで食べられへんの？大事なものは診断と病態把握	
9	6月20日		ちょっとした工夫で乗り越えよう先行期の障害への食事支援	
10	6月27日		助けて歯医者さん！準備期への障害への食事支援	
11	7月4日		頼れる武器、嚥下内視鏡を活用しよう	
12	7月11日		そこから先に進めない？口腔期の障害の食事支援	
13	7月25日		食道？気管？運命の分かれ道！咽頭期の障害への食事支援	
14	9月5日		せっかく飲み込んだのに…食道期の障害への食事支援	
15	9月12日		誤嚥してもええじゃないか？侵襲と抵抗のバランスを考える	
16	9月26日		肺炎にならないための抵抗を！呼吸理学療法・薬剤・ワクチン・栄養	
17	10月3日		その嚥下障害、医師のせい？	
18	10月10日		それは誤解です！胃瘦イコール禁食、ではない	
19	10月17日		食べることは生きること 嚥下機能のソフトランディング	
20	10月24日	ひと・身体をみる 認知症医療	「これまで」「いま」「これから」の認知症医療	高橋幸男 氏 (エスポワール出雲クリニック) 山崎英樹 氏 (いずみの杜診療所) 本間 昭 氏 (認知症介護研究・ 研修東京センター)
21	11月6日		誰のため・何のための認知症医療か	
22	11月13日		地域の医師と認知症医療(1)診療とモニタリング	
23	11月20日		地域の医師と認知症医療(2)診療とモニタリング	
24	11月27日		認知症の体への影響(1)自律神経機能の低下	
25	12月5日		①認知症の人に見られる一般症状	
26	12月12日		②つくられるBPSD	
27	12月19日		③認知症の薬物治療	
28	12月26日	Dr.山田のゆるい 糖質制限	いま、糖質制限食が必要です	山田 悟 氏 (北里大学北里研究所病院 糖尿病センター長)
29	1月9日		すでに効果と安全性は認められています	
30	1月23日		日本糖尿病学会は昔から認めています	
31	2月6日		三大栄養比率にこだわる必要はありません	
32	2月20日		糖質制限は批判されるべきものではありません	
33	3月6日		糖質制限はこうして実践できます	
34	3月20日	Dr.林の笑劇的 救急問答11(上巻)	肺塞栓(診断編)「突き刺すような胸痛を訴える47歳男性」	林 寛之 氏 (福井大学医学部附属病院 総合診療部教授)



#### 4) 学生等個別面談

地域枠等及び奨学金受給の学生に対して、個別面談を実施している。学年担当教官がそれぞれ分担して、年1回の定期的な面談ならびに必要なに応じて不定期に面談を行っている。

生活状況、学習状況など把握するとともに、相談に応じたり必要に応じて指導を行っている。

平成29年度面談実施者のべ数：139名（3月7日時点）

##### 平成29年度 地域枠等学生数

（ ）内は奨学金なし

		学 生						学生計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
地域枠	(一般)	9	13(1)	5(1)	6	12	10	55(2)
	(学士)	—	—	1	2(1)	1(1)	4(2)	8(4)
緊急医師確保		5	5	5	6	6	6	33
県内定着		7	8	9	6	6	5	41
地域枠等合計		21	26(1)	20(1)	20(1)	25(1)	25(2)	137(6)
奨学金のみ		0	4	2	6	4	6	22
奨学金のみを含めた合計		21	30(1)	22(1)	26(1)	29(1)	31(2)	159(6)

#### 5) サークル活動支援等

##### (1) 島根大学医学部地域医療研究会支援

地域医療研究会では、月2回程度の部会、夏の地域入り用合宿に加え、不定期にイベントを行っている。当講座では部会の場所の提供と必要に応じて相談にのる等のサークル支援を行っている。

今年度は夏の地域医療合宿に合わせて、昨年に引き続き、認知症に関するプレゼンテーションを行った。その結果について平成29年度に第8回プライマリ・ケア連合学会でポスター発表を行った。

##### ①地域医療研究会 夏季合宿

【日 時】平成29年8月7日（月）～8月8日（火）

【場 所】浜田市弥栄診療所他

【内 容】地域医療研究会が浜田市弥栄地域で夏のフィールドワークを行った。各グループに分かれて、弥栄診療所で患者さんのお宅を訪問し、また野坂集会所にて発表会を行った。

##### (2) 第8回プライマリ・ケア連合学会参加

【日 時】平成29年5月13日（土）～14日（日）

【場 所】サンポートホール高松他

【参加学生】医学科4年 堀西祐多

医学科3年 島田直英（発表）

##### (3) 国際保健同好会（ポラリス）支援

週1回部会を行っており、その会場としてみらいラウンジを提供して、必要に応じて相談にのっている。

## 6) 医師のキャリア支援

しまね地域医療支援センターと連携しながら、医師のキャリア支援を行っている。当講座教授がしまね地域医療支援センターの理事、専任医師、企画委員長を務め、また准教授が専任医師を務め、その運営にも積極的に関わっている。地域枠等卒業医師及び奨学金受給医師等の対象医師に対して、個人面談を行い、キャリアプランの作成支援を行うとともに、レジナビ、マッチング説明会などにも積極的に関わっている。

またしまね地域医療支援センターから委託を受け、総合診療医育成ネットワーク事業、ワークライフバランス支援を行っている（これについては別項で掲載する）。

( )内は奨学金非受給者

		研修医					研修医計
		初期1年	初期2年	後期1年	後期2年	後期3年以降	
地域枠	(一般)	7	10	10	10(2)	14(5)	51(7)
	(学士)	1(1)	2(1)	3(1)	2(1)	6(1)	14(5)
緊急医師確保		7	—	3	—	—	10
県内定着		6	—	—	—	—	6
地域枠等合計		21(1)	12(1)	16(1)	12(3)	20(6)	78(12)
奨学金のみ		8	6	10	6	17	47
奨学金のみを含めた合計		29(1)	18(1)	26(1)	18(3)	37(6)	128(12)





## 3 教育FD

島根大学医学部では、プライマリ・ケアの近接性、包括性、協調性、責任性を学ぶために、また大学附属病院では見ることができない医療の姿を経験するために、5年次・6年次の地域医療実習を行っている。

県内中山間地を中心にして50弱の医療機関にご協力いただき、地域医療実習を行っている。学生の教育を各地域で協力しどう行っていくかを話し合う場を年1回以上持ち、教育の在り方について論議している。

### 1) 地域医療教育連絡会

本学学生は、大学病院では経験できない様々な医療の側面を学習し、医療全体を見渡すことのできる広い視点を養い、医療の本質に対する理解を深めるため、県内の地域医療機関で実習を行っている。この地域医療実習を更に充実させるため、県内医療機関を8つのブロックに分け、地域医療教育に携わる本学医学部教員と各ブロックの実習担当者（指導医等）と意見交換を行うものである。

地区	日 時	会 場
安来	3月8日(木) 18:00	島根大学医学部会議室
松江	2月28日(水) 18:00	松江テルサ研修室
雲南	2月22日(木) 18:00	サンワーク木次研修室
出雲	3月2日(金) 18:00	島根大学医学部会議室
大田	3月7日(水) 18:00	大田市立病院第2会議室(3F)
浜田	2月15日(木) 18:00	浜田医療センター会議室2(2F)
益田	3月9日(金) 18:00	益田駅前EAGA多目的室1(2F)
隠岐	2月22日(木) 15:30～	隠岐島前病院会議室(1F)

### 2) 医学教育FD (第4回医学部教育FD)

【目 的】「臨床実習の充実に向けて」

【日 時】平成30年3月9日(金) 18:00～19:30

【会 場】講義棟1F国際交流ラウンジ

【対 象】大学教員及び職員、地域医療実習等で学生指導を担当する医療機関の医師、医学生等

【参加者】20名

【内 容】

基調講演「分野別国際認証に向けた自治医科大学の取り組みー臨床実習及び地域医療実習を中心にー」  
自治医科大学 地域医療センター 副センター長 小谷和彦氏

【テレビ会議システムで3の医療機関に配信を行った】

隠岐病院、大田市立病院、浜田医療センター

## 4 地域医療交流サロンの取り組み

### 1) 地域医療交流サロン・みらいラウンジ

平成22年に学内に「地域医療交流サロン」を設置した。ここは現在みらい棟2Fの当講座スタッフルームの向かいにあり、地域枠推薦入学等の学生と行政・医療機関との交流、学生と当講座教員との面談、地域医療関係のサークル活動等に利用されている。学生が地域の行政担当者・医療機関関係者と顔の見える関係を作ったり、地域医療のモチベーションを維持させたりするのに大いに役立っていると言える。さらに「地域医療交流サロン」には各学会誌や島根大学関連情報誌の掲示に加え地域医療、公衆衛生、統計学等に関する約1,000冊の蔵書があり利用者も多い。また、何も予定がない時には学生の学習の場所としても頻繁に活用されている。

みらい棟1Fに設置された「みらいラウンジ」には県内の行政・医療機関の広報誌を掲示し、学生への情報提供の場としても一役を担っている。

### 2) 学生と行政・医療機関との交流

地域枠推薦入学等の学生の出身地域へのモチベーションを持続させるために、県内の行政・医療機関が企画・立案した交流会が実施され、当講座教員も参加している。

交流会では市町村長や病院長・先輩医師等の出席があり、地域の実情や医療の現状等を直接聞くことができ、学生の参加率も高い。平成29年度は出雲市内で下記の交流会が行われた。

#### ■地域別交流会

##### ●隠岐交流会

【日 時】平成29年4月13日（木）19：00～  
【場 所】出雲市内

##### ●大田市交流会

【日 時】平成29年7月18日（火）19：00～  
【場 所】出雲市内

##### ●益田市交流会

【日 時】平成29年10月11日（水）18：00～  
【場 所】出雲市内

##### ●浜田市交流会

【日 時】平成29年11月10日（金）18：00～  
【場 所】出雲市内

##### ●美郷町交流会

【日 時】平成30年1月30日（火）19：30～  
【場 所】出雲市内

##### ●安来市交流会

【日 時】平成30年2月17日（土）18：30～  
【場 所】安来市内

### 4) 学生間、学生と教員等との交流

#### （地域枠等全学年集会、新入生説明会・意見交換会、学年会）

前年度に引き続き、地域枠等の学生が学年の垣根を越え、一堂に集まる地域枠等全学年会集を学生主催で行った。今年度は後期研修医の参加もあり、学生たち自らのキャリアプランを考える機会にもなり、悩みを相談したりアドバイスをしたりしてとても良い集まりとなった。

4月の入学式後に地域枠（学士入学も含む）等の新入生21名を対象に「新入生説明会・意見交換会」を開催した。島根県からは県知事をはじめ、地域医療に関わる島根県庁健康福祉部の方々にもお越し頂いた



他、病院長、医学部長、当講座の他に地域卒学生をサポートする総合医療学講座・地域医療政策学講座・卒後臨床研修センターの各教授にもご参加頂いた。

内容としては、当講座や各機関のサポート体制の説明をメインに、新入生の自己紹介を兼ねての抱負の発表、先輩学生からのアドバイスの発表なども行い、懇親を深めた。

さらに、夏以降において地域卒医学生相互、医学生と当講座教員、島根地域医療支援センター職員、県職員等の交流・意見交換・親睦を目的として学年別集会を開催した。

#### ■平成29年度新入生説明会・意見交換会

【日 時】平成29年4月4日（火）17：00～19：00

【場 所】島根大学附属病院 食堂 ラパン

【参加者】50名

#### ■平成29年度地域卒等全学年集会

【日 時】平成29年9月29日（金）19：00～21：00

【場 所】出雲市内

【参加者】55名

#### ■平成29年度学年会

##### 1年生学年会

【日 時】平成30年1月12日（金）  
18：00～20：00

【場 所】出雲市内

##### 2年生学年会

【日 時】平成30年2月28日（水）  
18：00～20：00

【場 所】出雲市内

##### 3年生学年会

【日 時】平成30年1月19日（金）  
18：00～20：00

【場 所】出雲市内

##### 4年生学年会

【日 時】平成30年3月2日（金）  
18：00～20：00

【場 所】出雲市内

##### 5年生学年会

【日 時】平成30年1月22日（月）  
18：00～20：00

【場 所】出雲市内

##### 6年生学年会

【日 時】平成29年6月28日（水）  
19：30～21：00

【場 所】出雲市内

#### 5) 図書・DVDの貸出事業

「地域医療交流サロン」には地域医療、公衆衛生学、疫学、統計学、臨床関係等に関する約1,000冊の蔵書、雑誌、「診療の達人」シリーズなどのDVDがあり、随時学生に貸し出しを行っている。

平成29年度貸し出し総数：29冊

## 6) 平成29年度学生との交流会アンケート結果

平成29年12月現在

	安 来 市	奥 出 雲 町	飯 南 町	雲 南 市	美 郷 町	邑 南 町	大 田 市	川 本 町	浜 田 市	江 津 市	益 田 市	吉 賀 町	津 和 野 町	隠 岐 の 島 町	西 ノ 島 町
①出雲市内においての交流会				●	●	●	●	●	●		●	未記入		●	対象無
②出身の地元においての交流会	●	●	●	●			●						●		
③交流会において地元の地域医療の状況や市・町の状況を説明	●														
④市長・町長や病院長等も交流会に参加	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	
⑤地元医療機関に勤務の研修医や、出身地の研修医・医師等も交流会に参加	●			●	●	●	●	●	●					●	
⑥医学科・看護師看護学科等への進学合格時のお祝い会		●		●			●		●	●	●				
⑦地域医療実習時の交流会							●								
⑧地域のイベント開催時の交流			●							●					
⑨お盆・正月等帰省時の交流															
⑩病院祭に招待										●					
⑪クリスマスカード・年賀状等のメッセージカード・広報誌等を送付															
⑫市町村の広報誌等へ学生のメッセージを掲載															
⑬ケーブルテレビ等への出演を依頼															
⑭シンポジウムへの招待															
⑮小・中・高校生への講演を依頼							●		●						
⑯学生との個別面談											●				
⑰卒業後医師との個別面談															
⑱その他の企画							●*								

\* 地域枠6年生の激励会



## 5 地域医療支援等

地域の医療機関や行政等の相談を受け、個別にアドバイスをし、また地域医療を守る住民活動の取り組み支援を行っている。

### 1) 地域住民への支援

地域医療を守ろうと活動している住民団体が個々の地域の活動にとどまらず、相互に交流を図り、ブラッシュアップをするためのネットワークの構築を行った。

#### ■平成29年度地域医療を守る住民活動連絡会in益田

【日 時】平成29年11月25日（土）13：00～17：30

【場 所】益田駅前ビルEAGA 3F 大ホール

【主 催】益田圏域住民・島根県内地域医療活動団体等  
島根県内地域医療活動団体等

#### 【内 容】

##### ○講演

「未来に続く命と医療を守るために～子どもも大人も安心して生きる社会を～」

講師：黒谷浩史氏（くろたに内科クリニック 院長）

##### ○パネルディスカッション

コーディネーター：佐野千晶氏（島根大学医学部 地域医療支援学講座 准教授）

#### パネリスト

- ①田部五月氏（飯南町の医療を守り支援する会 会長）
- ②石川 勝氏（雲南病院ボランティアの会 会長）
- ③加賀恵一氏（独立行政法人国立病院浜田医療センター管理課長）
- ④尾庭昌喜氏（益田の医療を守る市民の会 会長）
- ⑤吉岡みち子氏（島根大学医学部地域医療支援学講座 特任助教）

○講評 谷口栄作氏（島根大学医学部地域医療支援学講座 教授）



### 2) 個別の地域医療を支える機関への支援

#### ■平成29年度行政担当職員研修会・意見交換会（川本町・美郷町・邑南町）

【日 時】平成30年1月23日（火）14：00～

【場 所】島根大学医学部みらい棟1F みらいラウンジ

【参加者】8名

【内 容】○医師不足の現状と対策について



○支援対象者（医師・学生）へのサポート状況

地域医療を守る住民組織の活動状況のアンケート結果について説明。

地域枠推薦学生との交流会等のアンケート結果について説明し、今後のサポートについて意見交換した。

### 3) 平成29年度中四国フォーラム (in山口) 参加

中四国の地域医療関連寄付講座等、県、地域医療支援センター、各大学からの学生が一堂に会し、地域枠学生等の学部教育、キャリア支援を考えるフォーラムを各県持ちまわりで行っている。第8回目の今年は山口で開催され、各大学からの発表・グループワークならびに深い議論が行われた。

【テーマ】新専門医制度下での地域枠出身者のキャリア形成：各大学の取り組み

【日 時】平成30年2月9日（金）15：00～17：30／10日（土）9：00～15：00

【場 所】ホテルかめ福

【参加者】中四国各県の地域医療にかかわる大学関係者、県行政担当者、地域医療支援センター職員、地域枠等学生等。本学からは当講座教員3名参加。

### 4) しまね公衆衛生の会「Ship」

島根県内の公衆衛生研究、公衆衛生活動のレベルの向上、若手公衆衛生関係者育成を目的に、しまね公衆衛生の会「Ship」(Shimane Public Health Meeting) を平成27年10月に立ちあげた。「島根の公衆衛生の母港となって、それぞれが色々な立場で船出しても、原点として戻りつく場とする」という意味を込めて、命名した。島根大学医学部環境保健医学講座・地域医療支援学講座、島根県立大学看護学部看護学科の研究者及び大学院生等、また公衆衛生に強い興味を持ち学習意欲の高い若手保健医療福祉従事者が参加し、基本的に隔月で1回程度、島根大学医学部基礎研究棟8F環境保健医学講座カンファレンスルームにて公衆衛生に関する研究会を開催している。

#### ■第10回 平成29年4月15日（土）15：00～17：00 参加者12名

- 1) 雲南市における障がい者の実態と保健師の役割（雲南市役所長寿障がい福祉課 奥田久美子）
- 2) 米国（ワシントン州）における医療と看護（島根県立大学看護学部 小川智子）

#### ■第11回 平成29年6月24日（土）15：00～17：00 参加者11名

- 1) 病院外心肺停止症例の社会復帰に影響する要因を明らかにするためには～その疫学研究に向けての現状の検討より～（島根大学医学部地域医療支援学講座 布野慶人）
- 2) 認知症になっても地域で暮らし続けるために～学生からの提言～（島根大学医学部医3年生 島田直英）

#### ■第12回 平成29年8月19日（土）15：00～17：00 参加者7名

- 1) 国際保健～世界の裏側の公衆衛生～ AMSA、IMSAの活動に参加した経験と海外でのインターンシップ体験談：アジア医学生協会、国際医学生協会の会義に参加した経験、海外でのインターンシップを経験から（島根大学医学部環境保健医学講座公衆衛生学 佐藤利栄）



■第13回 平成29年10月21日(土) 15:00~17:00 参加者7名

- 1) 教員の精神的不健康は特定の身体部位の痛みと関連している(島根大学医学部環境保健医学講座公衆衛生学 神田秀幸:村上優子代理)
- 2) 地域の食習慣等把握の手法に関する検討「国民健康・栄養調査と食事歴法調査の比較」(島根県保健環境研究所 坂 秀子)
- 3) 医療保健関連学部 of 学生における朝食摂取頻度別栄養摂取状況の比較~朝食摂取の影響~(島根大学医学部地域医療支援学講座 中畑典子)
- 4) 島根県内のペースメーカー使用者のアフターフォロー状況(島根県立中央病院 細川看護師長)

■第14回 平成29年12月16日(土) 15:00~17:00 参加者13名

- 1) 島根県における血圧の推移(出雲保健所 岡 達郎)
- 2) 島根における要介護者数の推移と国策(県央保健所 上野明則)
- 3) 病院未受診者における病院アクセス困難要因の解明(島根大学医学部4年 堀西祐多)

■第15回 平成30年2月17日(土) 15:00~17:00 参加者7名

- 1) 中山間地域における家族介護者のソーシャルサポート(島根リハビリテーション学院理学療法科 橋村康二)
- 2) 島根県の保健活動の歴史的検討(島根大学医学部環境保健医学講座公衆衛生学 福田茉莉)

## 6 地域医療支援コーディネーター等への支援

島根県地域医療支援コーディネーターは島根大学医学部修士課程「地域医療支援コーディネーター」養成コースを修了し、島根県知事から認定書を交付された医療従事者である。島根大学医学部と島根県が連携して、医師不足地域への医師定着を促進するために、関係機関と連携しながら支援する目的で活動している彼らと養成コース在籍者の連絡会を開催している。また、地域医療支援コーディネーター以外にも同様な機能を果たしている、または果たしたいという人がいるので、それらの方々の活動・研究等を目的に研究会を開催している。

### 1) 地域医療支援コーディネーターへの研究支援

#### ① 薬剤師確保に向けた実態調査後の検討会

隠岐地域の薬剤師確保対策の構築のために、既存データを分析・検討を行った。病院の薬剤師確保対策と確保状況についての実態が明らかになった。学会発表に向けて、講座内で検討した。

【実施回数】 8回

### 2) 地域医療支援コーディネーターの学会発表支援

#### ① 第57回全国国保地域医療学会

【テーマ】 薬学部のない島根県の病院における薬剤師確保と定着にむけて～アンケート調査からの考察～

【日時】 平成29年9月20日（水）

【場所】 東京 ホテルメルパルク東京／メルパルクホール

【発表者】 野島慶明





## 7 ホームページ・広報誌等による情報発信

### 1) ホームページ

今年度はセミナー告知等の「お知らせ」を20回、開催報告等の「実施記録」を28回更新した。また地域医療実習募集PR・実習参加学生の感想の掲載や地域医療交流サロンに関するお知らせ等の更新も行っている。今後も継続して適宜的確な情報発信に努めたい。

※平成30年1月末の回数



### 2) Facebookによる情報発信

今年度は当講座Facebookを約59回更新し、平成29年3月末には411名であったフォロワー数が平成30年1月末には448名に増加した。



### 3) 地域医療支援学レター（年4回発行）

今年度もニュースレター「We loveちいき」を年4回発行し、紙ベースでのPR活動も行っている。島根大学地域枠等推薦入学ならびに奨学金受給の全学生・県内保健所ならびに医療機関・全国の大学の地域医療関連講座等に配布している。

島根大学と地域のかけ橋へ

vol. 19  
地域医療支援学レター  
2017.4

We Love ちいき

3/2 男女共同参画講演を開催しました。  
活動報告/地域医療支援学講座の主な取り組み報告  
【リレートーク第19回】雲南市立病院 宮 芳紀 氏

島根大学医学部地域医療支援学講座

島根大学と地域のかけ橋へ

vol. 20  
地域医療支援学レター  
2017.7

We Love ちいき

平成 29 年度 新入生説明会・意見交換会を開催しました。  
活動報告/地域医療支援学講座の主な取り組み報告  
【リレートーク第20回】医療法人協生堂 津和野村有希 副島航一 氏

島根大学医学部地域医療支援学講座

島根大学と地域のかけ橋へ

vol. 21  
地域医療支援学レター  
2017.10

We Love ちいき

平成 29 年度 地域枠等全学年交流会を開催しました。  
活動報告/地域医療支援学講座の主な取り組み報告  
【リレートーク第21回】自治体医師会連合会 あさひ診療所 酒原 俊彦 氏

島根大学医学部地域医療支援学講座

島根大学と地域のかけ橋へ

vol. 22  
地域医療支援学レター  
2018.1

We Love ちいき

社会医学系 専門医説明会

講座配属

専攻後のつとめ

活動報告/地域医療支援学講座の主な取り組み報告  
【リレートーク第22回】山根市民病院 内科部長 高橋 賢史 氏

島根大学医学部地域医療支援学講座

地域医療支援学講座  
1年間のあゆみ



## 8 総合診療医育成ネットワーク

### 1. 各医療機関間のネットワークづくり

#### 1) 総合診療専門医育成ネットワーク世話人会及び意見交換会等の開催

- ・世話人会議 4月1日 6月3日 9月18日 10月28日 12月3日
- ・世話人会議（メール会議）6回
  - 7月 総合診療専門医合同説明会について
  - 8月 総合診療専門医プログラム暫定版について
  - 9月～12月 総合診療専門医研修パンフレットの作成について
  - 1月～3月 次年度の取り組みについて

### 2. 総合診療専門医育成のためのプログラム作成・指導体制の支援

#### 1) 家庭医療専門医プログラム（Ver2.0）……10プログラム

平成29年度現在15名の専攻医が後期研修中である。

- ・島根大学総合医・家庭医養成プログラム（ver.2.0）
- ・島根県立中央病院地域医療・家庭医療プログラム（ver.2.0）
- ・出雲家庭医療学センター後期研修プログラム（ver.2.0）
- ・雲南市立病院総合医・家庭医教育プログラム（ver.2.0）
- ・大田市立病院総合診療医・家庭医育成プログラム（ver.2.0）
- ・家庭医療・地域包括ケア 仁寿・川本あいあいプログラム（ver.2.0）
- ・浜田市地域包括ケア家庭医療専門医コース（ver.2.0）
- ・津和野共存病院総合診療医・家庭医育成プログラム（ver.2.0）
- ・県境を含む中山間地域で育む総合医研修プログラム（ver.2.0）
- ・島根県済生会済生会江津総合病院総合診療専門プログラム（ver.2.0）

#### 2) 総合診療専門医プログラム……9プログラム

- ・松江生協病院総合診療専門医研修プログラム
- ・島根大学総合診療専門医コース
- ・島根県立中央病院総合診療専門研修プログラム
- ・出雲市民病院出雲家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム
- ・雲南市立病院総合診療専門医研修プログラム
- ・総合診療専門研修 仁寿・川本あいあいプログラム
- ・島根県済生会済生会江津総合病院総合診療専門プログラム
- ・浜田市地域包括ケア総合診療専門医コース
- ・津和野共存病院総合診療専門研修プログラム

## 2) 日本プライマリ・ケア連合学会指導医取得への働きかけ

奥出雲町立病院、出雲市総合医療センター、安来市立病院

## 3) ブラッシュアップ講習会・PTLS

### (1) ブラッシュアップ講習会in出雲

【日 時】平成29年7月9日(日) 14:00~17:30

【場 所】島根大学医学部看護学科棟

【講 師】東京北医療センター 総合診療科 南郷栄秀 氏

### (2) PLTS (Primary care Trauma Life Support) コース

【日 時】平成29年9月30日(土)、10月1日(日)

【場 所】社会医療法人石州会六日市病院

【参加者数】14名

【講 師】JCHO東京高輪病院総合診療研修顧問 箕輪良行 氏

石州会六日市病院 重富雄哉 氏

～六日市病院及びしまね地域医療支援センターと共催

## 3. 総合診療医等の研修

### 1) 総合診療スキルアップセミナー

NPO日本医療教育プログラム推進機構が開催する「総合診療医スキルアップセミナー」への参加

【場 所】東京港区 AP浜松町

#### (1) 日時：平成29年7月24日(月)

【内 容】外来超音波診療 (隠岐広域連合立島前病院 院長 白石吉彦)

内分泌代謝疾患 (大分大学内分泌膠原病腎臓内科 教授 柴田洋孝)

脳神経疾患 (日本医科大学脳神経外科 主任教授 森田明夫)

【参加者】島根県立中央病院 総合診療科 大畑陽子

#### (2) 日時：平成29年9月24日(日)

【内 容】ケースカンファレンス (洛和会丸太町病院 救急・総合診療科副部長 上田剛士)

呼吸器疾患 (沖縄県立中部病院 呼吸器内科部長 喜舎場朝雄)

小児医療 (フリーランス 境野高資)

【参加者】島根県立中央病院 総合診療科 上野伸行

島根県立中央病院 総合診療科 竹谷洋子



## 2) 総合診療専攻医の集い

【日 時】平成29年4月1日(土) 10:30~15:00

【場 所】島根大学医学部国際交流ラウンジ

【内 容】新専攻医合同オリエンテーションに合わせて、専攻医の集いを開催し、専攻医8名(内5名が新専攻医)が参加した。基調講演として専攻医プログラムについてご講演いただき、その後、「家庭医療をどう学ぶのか」「専門医取得の準備」についての意見交換を行った。

【日 時】平成29年12月3日(日) 10:30~15:00

【場 所】島根大学医学部国際交流ラウンジ

【内 容】総合診療専攻医、総合診療専門医を目指す先生方にお集まりいただき、「平成29年度島根県総合診療専攻医の集い」を開催しました。出雲市民病院の高橋賢史先生を中心に、ロールプレイやクリニカルジャズを行いました。総合診療専攻医及び初期研修医の先生方も今後のブラッシュアップの機会になりました。

## 4. 医学生・研修医等を対象とした地域医療研修等の受入体制の整備

### 1) ワークショップ

#### ・第1回総合診療ワークショップ

【日 時】平成29年6月17日(土) 14:00~17:00

【場 所】島根大学医学部国際交流ラウンジ

【講 師】角田耕紀氏(飯南病院 院長)等飯南病院のスタッフ 他

【内 容】飯南町立飯南病院院長 角田耕紀先生をはじめ、飯南病院・飯南町のスタッフの方を講師としてお招きし、総合診療ワークショップを開催しました。

「人生の締めくくりをみんなで考える」というテーマに沿って、ミニレクチャーを受け、ロールプレイ等を通して人生最大のイベントについて、楽しく学ぶことができました。

参加学生も積極的にディスカッションやロールプレイに参加し、スタッフの皆さんのモチベーションの高さに強く感銘を受けました。人生の最期をどう過ごすのか考える良い機会になりました。

#### ・第2回総合診療ワークショップ

【日 時】平成29年10月28日(土) 14:00~17:30

【場 所】島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー

【講 師】上野先生(島根県立中央病院 総合診療科)

竹谷 洋子(島根県立中央病院 総合診療科)

角 芽美(島根県立中央病院 総合診療科) 他

【内 容】医学生及び研修医の先生方を対象に「第14回総合診療ワークショップ」を開催しました。島根県立中央病院の上野先生を中心に「あなたが診たいのは疾患?・人?・それとも地域?」というテーマをもとに、1部は「鑑別診断」について、2部は「患者に寄り添う意思決定」について、ロールプレイを交えて行われました。

## 2) 学生への学会等参加支援

### ・第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会参加

【日 時】平成29年5月13日（土）・14日（日）

【場 所】徳島県

【内 容】学生1名が地域医療実習の取り組みについて報告した。学生セッションでの発表であったが、発表内容についても参加者から大きな評価をもらいました。

【演 題】認知症になっても地域で暮らし続けるために～学生からの提言

### ・第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会参加報告会

【日 時】平成29年5月23日（火）18：00～20：00

【場 所】島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンスI

【参加人数】10名

## 5. 医療機関・医師会・行政等と連携した総合診療医についての普及啓発

### 1) レジナビでの普及啓発

- ・しまね研修ナビ 平成28年6月4日（土）出雲市
- ・大阪レジナビ 平成27年7月5日（日）大阪市
- ・東京レジナビ 平成28年7月17日（日）江東区
- ・しまね研修ナビ 平成29年2月12日（日）出雲市

### 2) 学会等での普及啓発

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会  
平成28年6月10日（金）・11日（土）

### 3) 総合診療専門医プログラム説明会の開催

【日 時】平成29年9月18日（月）14：00～17：30

【場 所】島根大学医学部講義棟 国際交流ラウンジ他

【内 容】第1部は講演会、第2部は総合診療専門医プログラムに参加している9病院の担当者が、研修内容について説明を行いました。

第1部の講演会は、島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センター、助教和足孝之先生に講演いただきました。今後、総合診療専門医が増えていく背景、そして総合診療専門医の魅力について、熱く語っていただきました。

第2部は病院ごとにブースを設け、総合診療医育成ネットワークの9つのプログラムについてポスター展示し、各病院の担当者が研修内容の詳細について説明し、参加者からの質問等へ対応していただきました。



#### 4) 島根県総合診療医ポスターの作製

「20年後の長寿社会の医療を今ここ島根で学ぶ総合診療医」  
後期研修プログラムパンフレットによるPR活動

### 6. 大学の他部門と連携した取り組み

#### 1) 総合医セミナー（年4回）

#### 2) 総合診療医の育成プログラム「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」

（文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」）5年目

#### 3) 大学院コース等の支援

博士課程：地域医療・地域包括ケア指導者育成コース

修士課程：地域包括ケア人材育成コース（医療経営重点）

その他：①総合診療医・内科総合医育成コース

②地域包括ケア人材育成コース（インセンティブ）

#### 4) トワイライトセミナー（毎週火曜日18：30－20：00）

#### 5) 卒後臨床研修センター主催 早朝セミナー（毎週水曜日7：30－8：15）

## 9

# ワークライフバランス

## 1. 教育

### 1) キャリア教育

臨床実習前の医学科4年生を対象にしたキャリア教育（男女共同参画講義）を島根県医師会と共に、主催している。

【日 時】平成30年3月1日（木）

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【対 象】島根大学医学部4年生ならびに島根県医師会会員

【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

【共 催】日本医師会 島根大学男女共同参画推進室 島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室  
〈グループワーク〉

秋田大学医学部総合地域医療推進学講座 准教授 蓮沼直子 先生

〈キャリアモデル講演〉

島根大学医学部	消化器内科	医員	沖本英子 先生
	腎臓内科	講師	伊藤孝史 先生
	器官病理学	講師	荒木亜寿香 先生

〈島根大学男女共同参画の取り組み〉

島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当）河野美江 先生

〈島根県「えんネット」の取り組み〉

地域医療支援学講座 准教授 佐野千晶

〈医師会講演〉

「男性学の視点から男性の仕事中心の生き方を見直す」

大正大学心理社会学部人間科学科 准教授

厚生労働省イクメンプロジェクト推進委員会委員

田中俊之 先生

### 2) ワークライフ・バランス講義

島根大学医学部医学科1年生対象「地域医療学」のコースにて、「Work-Life Balance and Health Promotion」の講義を准教授 佐野が担当した。

コースの中で、少人数グループワークを行い、発表についての指導を行った。

### 3) 医師生活密着型実習

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師に同行して実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習である。

今年度も女性医師にご協力いただき、女子学生が特定の医師について、病院実習を行った。実習では、







医師の一日の始まりから終わりまで密着し、仕事以外の保育園の送迎や家事などの生活場面も合わせて一緒に体験した。

参加した学生さんからは「女性は結婚・出産などのライフイベントが自分の時間に与える影響が大きいので、医師としてやりたいことを全部やるのは難しいのではないかと思っていました。先生は家庭をもちながら、診療・検査・研究など精力的に活動されていて、とても素敵で憧れました」「先生の結婚・出産の頃のお話しも伺い、やりたいことをあきらめずにされている強さに自分も勇気ができました」といった意見が聞かれた。

協力女性医師の所属

- ・ 出雲市総合医療センター 医学科2年生 内視鏡検査に密着
- ・ 飯南病院
- ・ 浜田国保診療所連合体
- ・ 島根大学医学部附属病院 など

#### 4) 地域とともに課題を見つめ、キャリアをデザインする

しまねガールズ・サイエンスプロジェクト

島根大学男女共同参画推進室が進めるJST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に協力している。

- ・ 女子高校生の病院実習の女子医学生ティーチングアシスタントの派遣
  - ・ 出前授業 大多数を女子学生が占めるクラスの授業を行い、島根県における医療の魅力を発信している。
- 2018年1月26日(金) 益田翔陽高校 講師：佐野千晶

#### 5) マルガリータ先生を囲んでランチョンセミナー

スウェーデンのワークライフ・バランス事情や家庭医療について、スウェーデン ルンド大学 家庭医学 教授 Margareta Troeinを囲んでランチョンセミナーを行いました。

【日 時】平成29年11月20日(月)

【場 所】島根大学医学部みらい棟「みらいラウンジ」

【参加者】医学生8名、職員2名



## 2. 就労支援

### 1) 女性医師と医学部学生のイブニング交流会（えんネット交流会）

【日 時】平成29年6月7日(水)

【会 場】島根大学医学部共通カンファレンス みらい棟2F

女性医師の働き方、女性医師同士の横のつながりを持つために開催した。

女性医師らと女子学生とで議論が深まった。

【参加者】敬称略 順不同 荒木亜寿香(病理学)、守田美和(内分泌・代謝内科)、大西千恵(血液内科)、森山繭子(膠原病内科)、濱口 愛(呼吸器内科)、飛田礼子(皮膚科)、長谷川有紀(小児科)、真

子絢子（小児外科）、城麻衣子（心臓血管外科）、林田麻衣子（精神科）、堀田優希江（耳鼻咽喉科）、吉廻浩子（眼科）、吉田理佳（放射線科）、皆本敏子（産婦人科）、加藤綾子（研修医）、河野美江（学長特別補佐 産婦人科医 男女共同参画推進室）、田中真美（ワークライフバランス支援室副室長）



## 2) Career Café for Doctors（キャリア カフェ）

【日 時】平成29年12月13日（水）

【場 所】共通カンファレンス（みらい棟2F）

【参加者】女性医師3名 女子学生3名 講座スタッフ2名  
仕事について思っていること、「キャリアアップの手がかりって」「将来像のイメージがわからない」「ロールモデルが周囲にいない」「結婚して、子供がほしい」「島根って出会いがない?」「何科が自分にあっているのかよくわからない」「今時の病院でのワークライフバランスって」「自分に自信がもてない」などについて話し合いました。



## 3) 相談窓口

平成26年8月から働き方に不安を抱える方の窓口（えんネット）を設置し、出産・育児後の女性医師等が安心して職場復帰や、現在の働き方に悩みを抱える方のために個々に応じた復職への相談も受け付けている。復職支援プログラム作成や復職に向けたシミュレーション教育等を支援して、専門に応じた対応が必要な場合は、支援担当員として協力いただく専門科の先生に相談を受けることも可能としている。

相談件数 12件

・相談窓口事業の相談内容

- (1) 県内に赴任した際の研修機会の確保
- (2) 離職後の段階的なスキルアップについて
- (3) 異動先の院内保育所等 福利厚生 の状況
- (4) 身体的不調, 精神的不調
- (5) ライフイベントに関連した働き方
- (6) ライフイベントと奨学金返還免除期間

## 4) 復職サポート

病院を紹介し、復職のために必要なサポートを行った。具体的には、復職に協力してくれる病院へ条件や待遇についての交渉を行った。また、医師への図書やDVD、スキルアップセンターの利用（シミュレーション研修）等を促し、勤務の準備の支援を行い、勤務が開始された後は定期的な連絡をとり、アフター



フォローを行った。

### 3. 研究・発表

#### 1) 第8回プライマリ・ケア連合学会学術大会 ワークショップ発表

【日 時】平成29年5月13日（土）

【場 所】高松市・サンポートホール高松

ワークショップ19：今、私たちの求めるサポートとは？キャリア支援プログラムを知ろう！  
語ろう！（企画責任者 白石裕子 隠岐広域連合立隠岐島前病院）

【プレゼンター】佐野千晶

【タイトル】島根大学医学部における女子学生、女子若手医師の面談を通して

#### 2) しまね大交流会2017（オールしまねCOC+事業）

えんネット パンフレット配布

【日 時】平成29年11月18日（土）

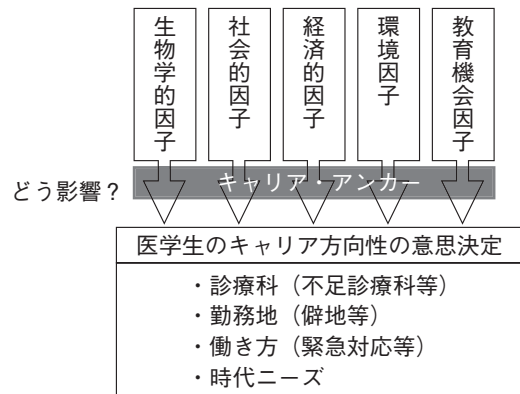
【場 所】松江市 くにびきメッセ大展示場

県内の企業・行政・NPO、また学生や大学研究室が行っている様々な事業や地域活動が展覧された。

#### 3) 学生のキャリア・アンカーについての研究

【研究代表者】佐野千晶

医学生のキャリア認識が、こういった生物学的因子、社会的因子、経済的因子、環境因子、教育機会因子と関連しているのかについてキャリア・アンカー理論を応用し、研究している。



### 4. 広報

#### 1) えんネットマガジンの発行

【特 集】隠岐で活躍する女性医師達

隠岐島前病院 白石 裕子先生ら 5名の女性医師にインタビュー取材

【取材日時】平成29年11月16日（木）

3,500部 発送予定

## 2) えんネットホームページの更新（随時）



<http://www.en-net.jp>

## 3) 島根大学医学部附属病院ニュース記事掲載

・2017年4月号

「男女共同参画講義を行いました」

・2017年8月号

「女性医師と医学生とでワークスタイルについて意見交換しました。

－平成29年度 えんネット交流会－

## 5. 託児付セミナー支援

平成29年度は託児付セミナーを3回行った。

### ●ブラッシュアップ講習会 in出雲

【日 時】平成29年6月3日（土）

【場 所】島根大学医学部講義棟国際交流ラウンジ

### ●総合診療ワークショップ

【日 時】平成29年6月17日（土）

【場 所】島根大学医学部講義棟国際交流ラウンジ

### ●専攻医のつどい

【日 時】平成29年12月3日（日）

【場 所】島根大学医学部講義棟国際交流ラウンジ

# 4 | 業 績

## 【論文】

1. Tatano Y, Yamabe S, Sano C, Tomioka H: Anti-*Mycobacterium avium* complex activity of clarithromycin, rifampin, rifabutin, and ethambutol in combination with adenosine 5'-triphosphate. *Diagn Microbiol Infect Dis*. 2017 88(3):241-246.
2. 佐野千晶, 清水利朗, 佐藤勝昌, 多田納豊, 富岡治明: 抗酸菌症の抗菌化学療法への生薬・漢方薬の併用の試み. *結核* 92(10):603-612, 2017
3. 佐野千晶, 布野慶人, 野島慶明, 中畑典子, 吉岡みち子, 谷口栄作: 薬剤師数動向に基づく地域の薬剤師ニーズの検討 *島根医学* 37(3); 41-41, 2017
4. 野島慶明, 佐野千晶, 布野慶人, 中畑典子, 吉岡みち子, 谷口栄作: 病院薬剤師確保の現状と取り組み (in press)

## 【学会発表】

1. 佐野千晶: ワークショップ19: 今, 私たちの求めるサポートとは? キャリア支援プログラムを知ろう! 語ろう! (企画責任者 白石裕子 隠岐広域連立隠岐島前病院) ①島根大学医学部における女子学生, 女子若手医師の面談を通して (プレゼンター) 第8回プライマリ・ケア連合学会学術大会, 平成29年5月13日, 高松
2. 島田直英, 岡 公平, 加藤 将, 中嶋史音, 中村愛佳, 三谷俊貴, 大本真由, 神谷龍輝, 阿部顕治, 佐野千晶, 谷口栄作: 認知症になっても地域で暮らし続けるために ~学生からの提言~ (学生セッション・ポスター)  
第8回プライマリ・ケア連合学会学術大会, 平成29年5月14日, 高松
3. 野島慶明, 谷口栄作, 佐野千晶, 吉岡みち子, 中畑典子, 直良浩司: 薬学部のない島根県の病院における薬剤師確保と定着にむけて ~アンケート調査からの考察~ (デジタルポスター)  
第57回全国国保地域医療学会, 平成29年9月20日, 東京
4. 佐野千晶, 多田納豊, 堀田尚誠, 津端由佳里, 濱口俊一, 濱口 愛, 沖本民生, 竹山博泰, 磯部 威, 富岡治明: 非結核性抗酸菌症に対する漢方薬の可能性(特別報告) 第11回日本結核病学会中国四国支部研究会, 平成29年10月27日, 広島
5. 佐野千晶, 多田納豊, 磯部 威, 富岡治明: *Mycobacterium avium* complexに対する抗菌薬とATPとの併用についての基礎的検討  
第68回日本結核病学会中国四国支部総会, 平成29年10月28日, 広島
6. 中畑典子, 布野慶人, 佐野千晶, 吉岡みち子, 谷口栄作: 医療保健関連学部の学生における朝食摂取頻度別栄養摂取状況の比較~朝食摂取の影響~ (ポスター)  
第76回日本公衆衛生学会総会, 平成29年11月2日, 鹿児島
7. 坂 秀子, 大城 等, 福屋由紀子, 中畑典子, 佐野千晶, 布野慶人, 吉岡みち子, 谷口栄作: 地域の食習慣等把握の手法に関する検討「国民健康・栄養調査と食事歴法調査の比較」公衆衛生学会, (ポスター)  
第76回日本公衆衛生学会総会, 平成29年11月2日, 鹿児島
8. 佐野千晶: 修学資金返還事例への対応と今後の対策 第8回中四国地域医療フォーラム プレ集会, 平成30年2月9日, 山口

9. 佐野千晶：新専門医制度化の地域枠出身者のキャリア形成 ―島根大学の取り組み― 第8回中四国地域医療フォーラム，平成30年2月10日，山口

#### 【講演・シンポジウム・報告等】

1. 谷口栄作：ワールドカフェファシリテーター 平成29年度島根県初期研修医合同研修会：平成29年4月8日
2. 佐野千晶 他：島根大学の地域医療教育の取り組み  
平成29年度島根大学／島根県・鳥取大学／鳥取県意見交換会，平成29年4月25日，米子
3. 谷口栄作：オール島根で取り組む地域枠学生及び医師支援 平成29年度全国病院事業管理者協議会「病院事業管理者研修会」，平成29年5月27日，東京
4. 佐野千晶：島根大学医学部地域医療支援学講座 取り組み報告  
平成29年度第1回 しまね地域医療の会，平成29年7月1日，出雲
5. 谷口栄作：地域医療を考える，島根大学訪問及び出張講演（兵庫県出石高校），平成29年7月28日，出雲
6. 中畑典子：食物摂取頻度調査 中間報告：出雲保健所主催在宅栄養士研修会 講師：平成29年7月28日，出雲保健所，出雲
7. 中畑典子：私が歩んできた道～ボランティアは誰のため？～，島根県高等学校家庭クラブ連盟指導者養成講座 講師，平成29年8月10日，島根県立男女共同参画センターあすてらす，大田
8. 布野慶人：アメリカ心臓協会ACLS講師 平成29年8月26日，鹿児島
9. 布野慶人：弥栄町で安心して暮らし続けるために必要なことは何か  
弥栄町臨時企画会議 平成29年9月15日，浜田
10. 谷口栄作：島根県・島根大学の取り組み，全国医学部病院長会議 地域における医師用の在り方に関する調査実施委員会 地域枠制度についての意見交換会（中国・四国ブロック），平成29年9月30日，広島
11. 布野慶人：第3回島根PTLSコース講師，平成29年9月30日，六日市病院
12. 谷口栄作：健康長寿を目指す、地域ぐるみのしまねの取り組み～過去・現在・未来～，全国食生活改善大会・中央研修会講義 平成29年10月1日，松江
13. 谷口栄作：島根大学医学部の地域医療教育の取り組み，島根大学医学部附属病院関連病院長会議，平成29年10月29日，出雲
14. 布野慶人：島根県臨床研修指導医講習会，平成29年11月4日～5日，パルメイト出雲
15. 吉岡みち子：地域医療を支える住民活動のこれからの方向性 パネリスト  
佐野千晶 司会  
地域医療と守る住民団体等連絡会 in 益田，平成29年11月25日，益田
16. 佐野千晶：高校生へのキャリア教育授業：益田翔陽高校  
島根大学 しまねガールズサイエンスプロジェクト，平成30年1月12日，益田
17. 佐野千晶：島根大学医学部地域医療支援学講座 取り組み報告  
平成29年度第2回 しまね地域医療の会，平成30年2月3日，出雲
18. 佐野千晶：国際基準に照らしてみた本学の医学教育  
医学教育FD，平成30年2月19日，島根大学 出雲キャンパス



19. 佐野千晶：浜田医療圏における地域課題抽出及び解決プロセスの教育方策の検討

島根大学 地（知）の拠点整備事業 平成29年度地域志向教育研究経費取り組み報告会, 平成30年2月22日, 島根大学 松江キャンパス

#### 【出展】

1. しまね大交流会2017（オールしまねCOC+事業）「えんねっと」パンフレット配布 平成29年11月18日 松江 くにびきメッセ

#### 【その他、学会等参加】

- |                                     |     |          |
|-------------------------------------|-----|----------|
| 1. 日本在宅医学会第2回地域フォーラム                | 岡山  | 平成29年4月  |
| 2. 第8回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会           | 徳島  | 平成29年6月  |
| 3. 第89回国保地域医療学会                     | 東京  | 平成28年9月  |
| 4. 第52回日本循環器病予防学会学術総会               | 埼玉  | 平成28年6月  |
| 5. 第49回日本医学教育学会大会                   | 札幌  | 平成29年8月  |
| 6. 医療介護福祉政策研究フォーラム                  | 東京  | 平成29年7月  |
| 7. 地域医療を守り・育てる住民活動全国シンポジウム          | 東京  | 平成29年10月 |
| 8. 日本公衆衛生学会                         | 鹿児島 | 平成29年10月 |
| 9. 医療介護福祉政策研究フォーラム                  | 東京  | 平成29年12月 |
| 10. 第44回医学教育者のためのワークショップ<br>（富士研WS） | 神奈川 | 平成29年12月 |

# 5 | 写真で見る1年間

4月 新入生歓迎会



4月 ランチョンセミナー



4月 地域医療セミナー







5月 フレキシブル・プライマリケア報告会



5月 ランチョンセミナー



6月 えんねっとイブニング交流会



6月 ブラッシュアップ講習会



6月 総合診療ワークショップ



6月 ランチョンセミナー



6月 地域医療セミナー



7月 ランチョンセミナー





7月 地域医療セミナー



9月 地域医療セミナー



9月 ランチョンセミナー



9月 全学年集会



9月 総合診療専門医説明会



9月 講座配属



10月 地域医療学講義



10月 夏季地域医療・フレキシブル実習報告会





10月 地域医療セミナー



10月 ランチョンセミナー



11月 地域医療を守る住民団体連絡会 in益田



11月 地域医療セミナー



11月 ランチョンセミナー



12月 専攻医のつどい



12月 社会医学系専門医説明会



12月 地域医療セミナー





12月 ランチョンセミナー



1月 ランチョンセミナー



1月 地域医療セミナー



2月 地域医療セミナー



3月 男女共同参画講義



3月 教育FD







# 資料編

平成29年度第1回

# 地域医療セミナー

テーマ

## 「激熱！！地域医療」

講師

角田耕紀先生

(飯南病院 院長)

- ・ 日時：平成29年4月26日（水）18：00～19：30
- ・ 場所：島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス
- ・ 募集人数：50名（お弁当を準備しています。）
- ・ 申込み先：メール：[career@med.shimane-u.ac.jp](mailto:career@med.shimane-u.ac.jp)⇒  
電話：0853-20-2558
- ・ 申込み締切：平成29年4月24日（月）
- ・ 途中入室・退室可能です。お気軽にお申し込みください。

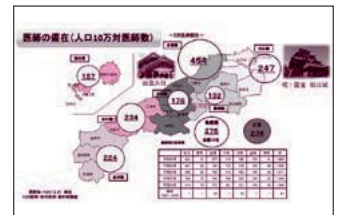
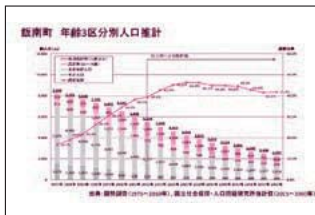
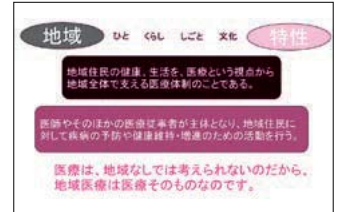
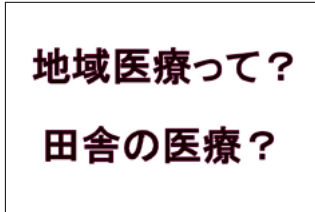
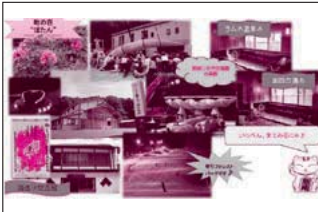


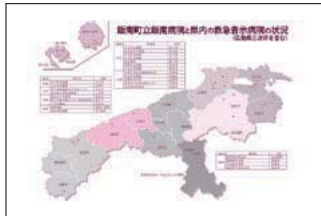
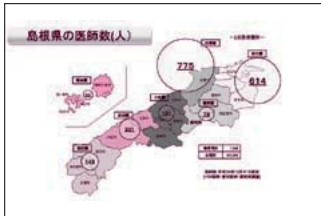
地域医療支援学講座 高橋



### 今日の話題

- 1) 飯南町の医療
- 2) 地域包括医療・ケアって？
- 3) 飯南町の取り組み





**飯南病院**

診療科: 内科、小児科、外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻科、歯科、放射線科、リハビリテーション科、検査科、薬剤科、看護科

実働診療科: 内科、小児科、外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻科、歯科、放射線科、リハビリテーション科、検査科、薬剤科、看護科

常勤医師6名  
歯科医師1名

**医療機関**

**介護福祉施設**

飯南町立飯南病院  
飯南町立介護福祉センター  
飯南町立高齢者福祉センター

**問題**

飯南町の医療機関や介護福祉施設などで勤務している人は、合計何人でしょう？

答: **約400人**

病院、医院、診療所 (約100人)  
介護・福祉施設 (約300人)

**地域医療の課題**

**医療全般の問題**

- 医療従事者確保(不足)
- 休日・夜間診療の負担
- 高齢者、慢性疾患の増加
- 医療ニーズの多様化
- 大規模な専門施設

**地域性**

- アクセス
- 少子高齢化、人口減少
- 高齢者
- 収入が低い
- 文化・娯楽施設不足

**体制**

- マンパワー不足
- 役割分担(かかりつけ医、病院)
- 在宅と医療機関との連携
- 急病を要するとは難しい
- 経営、お金の問題

**人・コミュニケーション**

- 知識、技術、経験
- 言葉、生活、学習、娯楽
- 情報との付き合い方
- 地域との付き合い方
- つながり、自分と他人との付き合い方

**地域医療を考える**

キーワード  
総合医  
プライマリケア

**総合医とプライマリケア**

**総合医**

総合医とは、幅広い診療、中心診療、救急診療、夜間・休日診療、在宅診療、地域包括ケアなど、幅広い診療領域をカバーし、地域住民の健康を支える役割を担う医師のことです。

**プライマリケア**

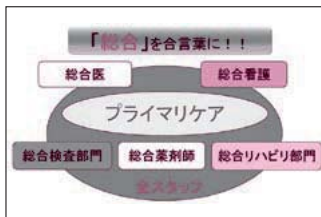
患者の健康を維持し、病気を予防し、軽微な病気を治療し、重症化するのを防ぐ役割を担う医師のことです。

**地域医療のニーズと総合医**

地域住民が地元の医療機関にもとめることは？

地域医療・総合医の10箇条

- 1) 24時間対応
- 2) 救急対応
- 3) 夜間診療
- 4) 休日診療
- 5) 24時間対応
- 6) 24時間対応
- 7) 24時間対応
- 8) 24時間対応
- 9) 24時間対応
- 10) 24時間対応



**高次医療への架け橋**

この地域唯一の入院設備を有した救急告示病院

急性冠動脈症候群、脳卒中、急性心不全、急性腎臓病、急性呼吸不全、急性意識障害、急性意識障害、急性意識障害、急性意識障害



**飯南病院の使命**

地域の救急告示病院として24時間365日二次救急を守る。

総合医がリーダー！地域ニーズと地域特性を重視！プライマリケアを中心とした医療サービスの提供を行う。それは多職種スタッフとの協働・連携が実現されること。

公立病院として住民のQOL(生活の質、人生の質、しあわせ)に焦点をあて、保健・医療・介護・福祉の連携を基盤とした地域包括医療・ケアを推進していく。



使える 住民にとって 融通が利く

**小規模多機能病院**

地域での大きな役割 **小規模多機能病院**

予防、一次医療、二次医療、子供、高齢者、性別、手術、検査、診断、治療、療養、終末期、在宅、救急、入院、学校、地域

**「総合志向」が織りなす地域医療の醍醐味**

・外来診療や在宅診療などの役割をもち、かかりつけ医(ホームドクター)の役割  
・病院内での総合的な診療や診療に携わる病院医(ホスピタリスト)の役割  
・地域的な役割への関わりが、地域包括  
・責任がより明確になり、もたらすマンパワーは、これまで以上に  
・地域とのネットワーク、住民との距離感、顔の見える関係、信頼関係が成り立つ  
・地域社会の中での医療者としての役割を重視し、ならぬ仕事ができる

少ない医師数で多様な医療ニーズに対応するには、やはり「総合」が「よし」！

「総合」があることによって自分も「できる」ことができるのが「よし」！

**地域医療はやりがい満点、おもしろい！**

かかりつけ医、病院総合医

**楽しく、やりがいのあるフィールド**



**医療人としての目標**

- 1) 総合性
- 2) 柔軟性
- 3) 愛情
- 4) コミュニケーション
- 5) 向上心

**バランス感覚に優れた医療人**

**飯南ビジョン**

地域住民から愛される医師  
コストパフォーマンスがよい医師  
飯南にあった医療体制

地域での役割を再認識し、やりがいをもって働く  
自分の生活も大切にしながら

地域包括、飯南町、病院との連携  
コンパクトな地域からこそ可能なサービス  
センターシステムに「ホスピタリティ」



**地域包括医療・ケア**

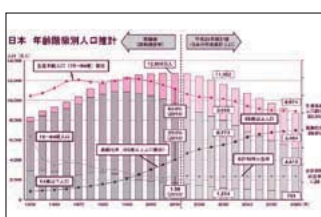
って???

**地域包括医療・ケアの推進**

地域包括ケアシステムの構築

???????

**背景**

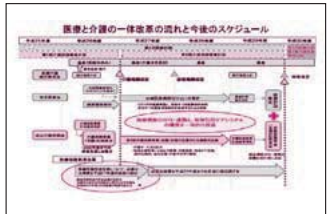


**日本の人口**

- ・現在、日本の人口は毎年20万人余り減少(出生:約100万人、死亡:約120万人)
- ・2020年代には毎年60万人程度の減少
- ・2040年代頃には毎年100万人程度の減少(死亡:約170万人へ⇒多死時代)

### 超高齢化社会における 地域医療のパラダイムシフト

治す医療	癒しえる医療
長く生きる(期間)	より良く生きる(質)
臓器別・専門性	総合的対応力
病院完結型	地域完結型



地域包括医療・ケア(システム)とは

- 地域に包括医療・ケアを、社会的資源を駆使しつづき継続して実施し、住民が安心・安全に暮らしながら必要な医療・ケアを受けられることを目指す。
- 包括医療・ケアとは、医療サービスのみにならず保健サービス(健康づくり)、在宅ケア、リハビリテーション、福祉・介護サービスのすべてを含むもので、医療従事者やボランティアの協働及び住民参加のもと、地域ぐるみの連携・ネットワークで実施することを目指す。
- 施設すれば保健(予防・保健・福祉と医療の連携(システム)である。
- 地域とは異なるAreaでほかに、Communityを指す。

平成24年9月改訂 国土 国土医療政策推進部地域医療推進チームページより抜粋

地域包括医療・ケアの発展や地域包括ケアシステムの構築を促す、ということば?

目的  
その地域に暮らす人(住民)の暮らし、人生の質の向上

方法  
保健・医療・介護・福祉の連携(それらの領域の専門家と連携して)住民の意思、多職種連携、互いの役割・役割分担、住民参加

特徴  
評価すること、評価をもとに改善を図ること

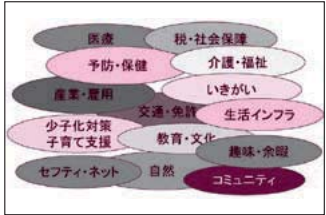
効果  
住民がQOLの向上を実現できる

### 具体的には?

### 医療的な目線から みると・・・



### 生活の視点から 見ると・・・



### リスク

- ①危険。危険度。
- ②また、結果を予想できる度合。
- ③予想通りにいかない可能性。



意識しすぎは良くないけれど・・・

### 人生はリスクだらけ

生きることは、リスクと付き合うこと

あたりまえのことかもしれませんが・・・

**リスクは決してゼロになりません**

それなら  
リスクを理解し、受け入れて、  
うまく付き合いながら  
自分らしく過ごしていきたい!!

と、思うのは私だけ?

この地に生を受け、育ち、生活を営み、  
次世代につなげ、人生を締めくくる・・・

### 地域包括医療・ケア

その人が、その人らしく『生きて逝く』  
ための仕組み、ネットワーク。

保健・医療・介護・福祉の視点での  
**リスクマネジメント**

### 全世代の 参加が必要



『みんなで考えよう』  
使える地域包括ケアシステムを目指して

★それぞれの地域の資源(地勢、生活、文化、人材、社会資源)によって、  
それぞれのシステムの型がある



### 飯南町版 地域包括医療・ケア

### わがとこ、わがこと いいなん方式

### 鳥根県 飯南町 歴史



### 飯南町 生きがい村

旧赤来町の「生きがい村」は、  
今後は飯南町全域を一つの「生きがい村」としてとらえて、  
保健・医療・介護・福祉の連携をはかる

将来的には、教育、文化、産業等の分野とも連携し、  
視野において、「飯南町全体が「生きがい村」とする

飯南町版「地域包括医療・ケア」を築くのである

生きがい村推進センター発足

### 生きがい村推進センター(平成22年4月発足)

生きがい村???

何をすればいいの? → どのくらいの役割? 組織?

何を担うの? → 何を担う? 誰が担う? 誰が?

何をやるの? → 何をやる? 誰がやる? 誰が?

いつやるの? → いつ?

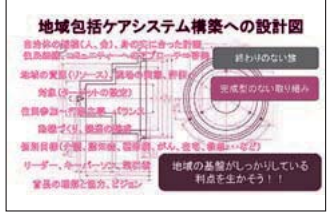
何をやるの? → 何をやる? 誰がやる? 誰が?

### 『飯南町 生きがい村』に 実現力を!

『生きがい村』は地域の資源を駆使して実現される

そんな使える地域包括ケアシステムを構築する!

- ①自らを知る(と、視点、ニーズ)
- ②情報共有(INPUT&OUTPUTの具体性)
- ③知恵を出し合い、決めること(多職種連携と決定力)
- ④行動すること(同じ方向で)
- ⑤評価すること(次につながるフィードバック)



○理  
○情  
○地  
○人

★連携力(情報が集まる、承認)

★決定力(ビジョンと決断)

★実現力(指示、実行、責任)

### 新たな組織へ

### リーダーシップ は?

やっぱり、  
医療が引っ張らなきゃね!!

### 『使える地域包括ケアシステム』

と、りて

### 医療は、(最後の)砦

医療への入り口

### 平成28年度の変更・見直し点

平成28年3月  
飯南町における地域包括医療・ケアを推進する  
組織であった『生きがい村推進センター』を終了

平成28年4月  
『飯南町 地域包括ケア推進局』  
発足

### 飯南町 地域包括ケア推進局

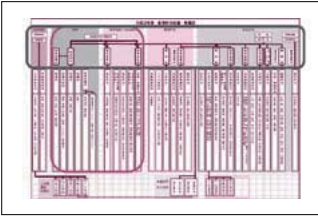
飯南町総合振興計画を  
最上位計画としたなかで、飯南町における  
地域包括医療・ケアを推進していく組織として

飯南町  
生きがい村推進センター  
(平成22年4月～)

飯南町  
地域包括ケア推進局  
(平成28年4月～)

○理念や基本方針等は、いままでも何ら変わることではない

○役割を明確化→総論の目的に合わせた各務変更を行った  
総論の組織改革に合わせて組織を明確に



**行政＝縦割り**と言われますが、**ナガティブ**のいいこともいっぱいあります。各部門のトップが横断的に連携できる組織が理想。地域包括ケアシステム構築への参加に関係者はいない。中核的の力を発揮。分業制の推進。必要に応じて。横断的企画・調整。



**使命**  
飯南町地域包括ケア推進局は、**保健・医療・介護・福祉の視点から、住民と共にその「QOLの向上」に寄与する。**  
※QOL: Quality of Life: 人生の質・生活の質

**行動指針**  
○飯南病院・保健福祉センターを中心とした、**飯南町および管内関係機関との情報共有と連携。**  
○地域医療を支える人材の確保と育成。  
○地域のニーズに対応した質の高い**保健・医療・介護・福祉サービスの提供。**

平成28年度 これ以上です！  
①地域包括ケア推進局をまずは知ってもらおう！  
②介護福祉部会の役割を明確にしよう！  
③各課との情報共有・連携を図ろう！

**個 ⇄ 地域**



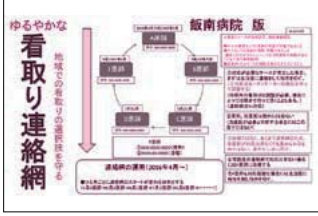
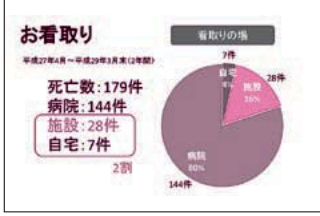
合言葉は **コラボろう！**  
**介護 × 医療**

地域包括ケア推進局 介護福祉部会  
今後の展望  
○タイムリーなケアの実現  
○人材確保、人材育成  
○地域との連携強化  
○職員の研修  
○多岐にわたるケア



**介護 × 介護 相互交流**

所属	担当	担当部署
飯南病院	看護部	看護部
飯南病院	介護部	介護部
飯南病院	リハビリ科	リハビリ科
飯南病院	診療科	診療科
飯南病院	検査科	検査科
飯南病院	薬剤科	薬剤科
飯南病院	放射線科	放射線科
飯南病院	病棟	病棟
飯南病院	外来	外来
飯南病院	在宅医療	在宅医療
飯南病院	介護福祉部会	介護福祉部会
飯南病院	地域包括ケア推進局	地域包括ケア推進局



**施設看取り**  
平成27年4月～平成28年3月(2年間)

施設名	看取り数	平均年齢	性別
飯南病院	144	85.5	男: 72, 女: 72
施設A	28	88.5	男: 14, 女: 14
施設B	7	82.5	男: 4, 女: 3

**住民 × 保健・医療 介護・福祉**



**飯南町長生き地域現状**  
◆新しい道の増加  
◆地域高齢者における高齢者活動  
◆地域の高齢者  
飯南町長生き地域  
平成25年度 約5,000人  
平成29年1月1日現在  
介護認定のある方も多数参加

**教育 × 保健・医療 介護・福祉**



**観光 × 森林 × 健康**



**飯南町森林セラピーの拠点もりのす**

交流する等々の思い  
 健康維持の活動療法  
 リハビリテーション  
 認知症予防  
 暮らしの健康づくり  
 フォレストの創造

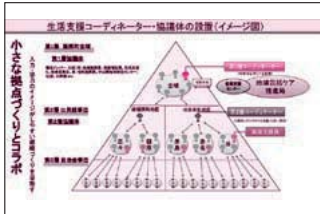
**森林セラピー × 介護予防**

森林セラピー推進委員会  
 森林セラピー推進委員会  
 森林セラピー推進委員会

**森林セラピー推進委員会**

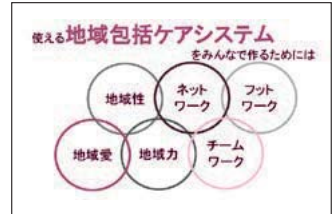
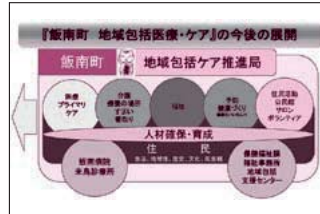
まちづくり  
 まちづくり  
 まちづくり

**生活 × 地域包括ケア**



**地域包括ケアシステム構築へのキーパーソン**

住民リーダー  
 地域コーディネーター  
 保健師の活躍  
 (地域、包括、本部)  
 抽出・調整・統括・企画



**地域包括ケアシステム構築への課題**

※コミュニティの単位設定  
 ※住民参加、普及  
 ※政策、行政運営と住民参加とのバランス  
 ※既存の資源の活用と新しいサービスの創出、ICT活用  
 ※財政基盤、お金の使い道、老朽化への対応、負の遺産対策  
 ※組織、リーダー、牽引役、連携  
 ※地域間の互への対応

飯南町はすでに高齢化のピーク  
 次世代の地域づくりを始めるとき

鳥根は日本の模範  
 しまねシステムが日本のモデルに

首長  
 行政  
 専門職  
 覚悟と心構え

**地域づくり**  
 まち・ひと・しごと  
 人・物・金・情報  
**地域包括医療・ケア**

このフィールドだから経験できること  
 このフィールドでしか経験できないこと

**激熱！！地域医療**  
**なんでも屋は楽しい！**



平成29年度第2回

# 地域医療セミナー

テーマ

「介護保険活用術-事例から学ぶ-」

講師

三原 佳代子氏

松江市社会福祉協議会  
湖南地域包括支援センター 社会福祉士

- ・ 日時：平成29年6月20日（火） 18：00～19：30
- ・ 場所：鳥根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス
- ・ 募集人数：50名（お弁当を準備しています。）
- ・ 申込み先：メール：[career@med.shimane-u.ac.jp](mailto:career@med.shimane-u.ac.jp)⇒  
電話：0853-20-2558
- ・ 申込み締切：平成29年6月16日（金）
- ・ 途中入室・退室可能です。お気軽にお申し込みください。



地域医療支援学講座 高橋

## 介護保険活用術

最近の相談事例の傾向より

松江市社会福祉協議会  
湖南地域包括支援センター  
社会福祉士 三原佳代子

## 地域包括支援センターとは？

高齢者介護・福祉の相談窓口。  
保健師、主任ケアマネジャー、  
社会福祉士が配属。  
高齢者、家族からの直接の相談や、  
地域の民生委員の支援、ケアマネ支援、  
地域ケア会議の開催などを行う。

## 松江市の地域包括支援センター



## 主な相談内容

認知症など介護方法について  
金銭管理について  
介護保険について  
松江市の高齢者福祉サービスについて  
高齢者虐待  
消費者被害・詐欺など

## 相談の8割近くは

### 介護保険制度について

## 介護保険とは

40歳以上の方が保険料を払い、介護が必要な人がサービスをうけられるよう支える仕組み。  
保険料と税でまかなわれている。

## サービスを受けられる人

65歳以上で介護が必要な人は、認定されれば介護サービスがうけられる。  
40歳以上から64歳の人は、医療保険加入者で、特定疾病が原因で介護が必要になったということが条件。

## 利用方法

まずは市役所に申請  
市役所に行けない人は 地域包括支援センターなどが代行申請も可。

認定調査  
医師の意見書  
審査会で認定をうける。



## 認定をうけたら

要支援1、2、要介護1～5の認定をうけると介護保険サービスが利用できる。



非該当になっても、特定の項目に該当すれば、市町村独自のサービスが利用できる。

## 利用料金

介護度別に限度額が定められており、そのなかであれば、1割か2割を自己負担。（収入によって違う）

介護保険料を納めていない人は3割負担や全額負担の場合もある。

## サービスの種類

### 在宅編

## 家庭を訪問するサービス

訪問介護  
訪問看護  
訪問リハビリ  
訪問入浴介護

など

## 日帰りサービス

通所介護  
通所リハビリ  
短期入所サービス  
短期入所生活介護  
など

## 福祉用具レンタル

歩行器、車いす、ベッド、  
置き型手すりなど  
福祉用具購入  
シャワーチェアなど入浴補助用具  
ポータブルトイレ など

## 住宅改修

（事前に申請が必要）

手すりの取り付けや  
和式トイレから洋式トイレへ変更、  
段差の解消などの改修費を支給。





## サービスの種類 入所編

特別養護老人ホーム  
老人保健施設  
グループホーム  
など

基本料は定額。  
特別養護老人ホームなどは  
部屋代、食費は減免制度が有。

参考 特別養護老人ホーム入所  
要介護3の場合で多床室、  
住民税非課税世帯で収入年80万円以上の  
場合  
利用料5万から6万円程度(申請が必要)

介護保険活用により生活が  
おちついたケース

### 転倒骨折にて入院したAさん

Aさん 80歳女性 独居  
転倒骨折により右足の手術、リハビリで入院。  
ゴールに近づいてきたため、退院の連絡が  
医療ソーシャルワーカー(MSW)よりはある。  
本人面談をし、介護保険申請を代行する。  
「サービスをわかなくてもなんとかなると思  
う」とAさん。

一時外出をし、在宅生活をイメ  
ージする。

ご本人、MSW、PTと一緒に自宅訪問。  
さっそく玄関の框がひとりであげれない。  
「あれ・・・？」  
浴槽も深く、またぐのにびくびくしておられる。  
「こんなはずじゃ・・・」

リハビリとしてはゴールだが、A  
さんはもう少し入院を希望。

やっぱりひとりで生活するのは無理か。  
以前と同じ体に戻るまで入院させてください  
とAさん。  
医師より、以前と同じ状態に戻るはむずかし  
いと説明される。  
介護保険を使いながらの生活を検討。要介  
護1の判定ができる。担当ケアマネジャーを紹介。

Aさんの心配事をひとつずつ整  
理する。

玄関があがりにくい。  
→手すりの設置  
浴槽がまたげない  
→踏み台の設置  
また転んだら怖い  
→週2回在宅でも通所リハビリを利用してみ  
る。

### サービス調整をして退院

生活しながら悩みがあれば、都度ケアマネ  
ジャーに相談。  
病院と連携をとりながら在宅生活が開始され  
た。  
地域の民生委員さんの見守りも依頼し、現  
在はおちついて生活できている。

介護保険だけではむずかしいと  
感じたケース

### 脳梗塞後遺症により悩むBさん

Bさん 45歳女性  
夫、中学生、小学生の4人暮らし。  
脳梗塞後遺症により左半身麻痺。  
リハビリもゴールに近づいたため、退院の連  
絡がMSWよりはある。介護保険申請済。身  
体障害者手帳を検討中。  
「子どもたちのことも心配。ちゃんと家事がで  
きるだろうか。」

### ☆身体障害者手帳とは

- 身体に障がいのある方が、申請に基づき  
障がいの種類・等級に該当すると認めら  
れた場合に県知事から交付される手帳。
- 手帳を取得することで各種の福祉サー  
ビスを受けることができる。

介護保険と障がいサービスは同じサービス  
内容の場合、介護保険が優先とされている。

### Bさんの不安

・毎日の家事ができるだろうか。  
・トイレ、お風呂もひとりでできるだろうか。  
・急にリハビリをやめてほしいだろうか。  
・退院したいけど、退院するのがこわい。  
医師、看護師、PT、OT、MSW、包括職員で  
何度も相談。一時外泊を体験してから退院  
調整にはいることとする。

### 一時外泊してみても

家事 掃除はクイックルワイパーを使用して  
みる。  
炊事 立ってできない。テーブルと椅子で材  
料を切ってみる。かたいものはむずかしいが  
、切れるものもある。  
買い物は夫の協力が得れる。  
トイレ、入浴は環境を整えれば、ひとりで可  
能。

### 要支援2 サービスの調整

訪問介護は週3回までしか利用できない。  
訪問リハビリ週1回、ご本人の炊事の仕方を  
一緒に検討する。  
体調管理に訪問看護を週1回。  
通所のリハビリも考えたが、高齢者が多く、B  
さんにあったところがない。  
費が高く、本人にあらう車いすが借りれない。  
介護保険だけでは限界・・・

### 障がい相談員に相談

障がいサービスを検討する  
しかし！！！！！！  
身体障害者手帳の場合、手帳を取得してからで  
ないとサービスが利用できない。  
(精神、知的などは医師の診断書などで可)  
障がい固定される半年を待って検討する  
ことに。

### 通所サービスの開拓へ

理解のある介護保険事業所と相談し、若い  
人向きの曜日をつくっていただく。  
半日体制の週1日のみ。  
40歳から64歳の特定疾病の方を中心。  
事業所さんからも「若い人がこられるたび  
、違和感があった。早く検討すればよかった。  
これから必要だと思う。」

### 退院 在宅生活をスタート

なんとかできるところでやってみる。  
実費含め 訪問介護週5回 調理補助  
訪問リハビリ週1回 調理支援  
訪問看護週1回 体調管理  
通所介護週1回 引きこもり防止  
福祉用具購入 浴室環境整備  
家庭での役割をBさんがはたせるよう支援。

### 半年後・身体障害者手帳取得

障がい相談員がチームに加わる。  
追加で  
障がい者サービスで車椅子を購入。  
機能訓練に週2回通う。  
自動具の使い方、調理の仕方の訓練をうけ  
る。  
意欲的だったBさんは調理がどんどんできる  
ようになり、笑顔もできるようになった。

### 多職種が連携することにより

Bさんが思う在宅生活に近づけていくことが  
できた。  
今も子どもたちと一緒に家事をしたり、母親  
としての役割もされている。  
介護保険だけで生活を支えるのはむずかし  
い。制度外の方法も視野にいれながら支援  
方法を考える。

### ひとりごと

どのサービスも申請してから利用できるま  
でにかなりの時間がかかる。  
もう少し短縮できたらどんなにいいことか・・・

認知症はひとごとじゃない！  
地域活動にまで発展したケース

### 認知症のCさんと 認知症を認めたくない妻の支援

Cさん 80歳 男性  
75歳の妻と二人暮らし  
子どもはいない。兄弟も他界。  
民生委員さんより  
「Cさんは最近物忘れができています。近所  
の人の顔もわからないよう。妻はまだだい  
じょうぶと受け入れてくれない。このままお  
いてもいいのだろうか。」

### 包括支援センターより自宅訪問

Cさんは自転車を外出している。  
妻と面談  
「いろんな人がCに物忘れがあるんじゃない  
かと言われるが、なんとかやれている。  
周りが騒ぎすぎて、こっちが困っている。」

何かあればご相談くださいと伝える。

### 1か月後 妻より電話

「昨夜、自転車で乗って出かけてから、  
Cが帰ってこない。」  
包括より交番に連絡。  
民生委員、隣人と捜索。  
隣の市で、自転車で乗って倒れている  
高齢者がいると情報がある。

### 病院へ救急搬送

脱水、熱中症。  
Cさんはいつ家を出て、どの経路をたど  
ったのか説明できない。  
医師より、認知症の説明をされ、専門医に  
かかることをすすめる。  
妻、はじめてCさんの症状と向き合う。  
「これからどうしたらいいんだろう。」

### 専門医の受診、介護保険申請へ

認知症と診断。  
妻へ認知症のかかり方を、医師、看護師  
から説明。  
介護保険申請。  
暫定でケアマネジャーをつけ、通所介護開始  
。自転車、服、靴などに名前と連絡先を記入。

### 交番へも協力要請

認知症見守りネットワークサービスの利用へ  
☆行方不明になったとき、協力者にメール配  
信がされ、一緒に探してもらえる。

**その後のCさん..**

妻も何かあると専門医に相談して、対応の仕方を考えられるようになる。

Cさんは通所サービスをつかいながら、通所しない日は好きな花の手入れをしている。

ただ、時々自宅に帰れないことは続いた。

民生委員より対応の仕方を教えてほしいと話される。

**地域ケア会議の開催**

妻、病院看護師、ケアマネ、デイ相談員、交番、民生委員、社協、包括

・Cさんの今の状態を共有  
・帰れなくなった時の声掛けの仕方などを共有  
・誰に連絡していいか。誰が関わっているのか。

地域で見守り体制を構築

**民生委員より  
民生委員定例会で事例報告**

他の民生委員からも、自分の担当地区にも認知症かな..と思うケースが多い。

でも、実際どう対応したらいいかわからないと声があがる。

**認知症劇団立ち上がる**

公民館、社会福祉協議会と相談して、劇団をつくった。

包括より台本をつくって、ただ読んでもらう。地域の中には演じることをおもしろいと感じる人も多く、演者を紹介してもらい、一緒にやりくんだ。

**個人の問題でおわらせない**

個人個人悩みは違うが、共通するものもたくさんある。

こんなのあったらいいな..と思うことは、ほかの人にも、あったらいいもの。

縦割り制度をこえた仕組みを。

**最近の相談傾向**

多問題ケースが増えてきている。

- ・お金がない、借金を繰り返す。
- ・介護者の仕事がない
- ・身寄りがない(あっても関係が悪い)
- ・ペットの増殖(不衛生、施設入所時トラブル)
- ・宗教への過剰な依存(医療にかからない、介護もうけない)

**介入ケースも増加傾向**

本人、家族がもともと相談に来られるのではなく、

「近所の人の様子がおかしい」

「どうもお金に苦労しているようだ」

「なんとかしてほしい」 など

相談に入るのに同意がとれていないケースも増。

介護保険だけでは支援がむずかしい。

最近一緒にすることが多い機関  
医療機関、弁護士事務所、成年後見センター、保健所、警察、くらし相談、行政 など

そこと介入してから、介護や今後の生活の相談に入れることもある。

**チームで支援**

支援者が抱え込みにならないよう、多職種でチームをくんでいく。

医療と福祉の連携は必須！！

現場にでられたら、ぜひ地域包括支援センターと連携をとりましょう！！

平成29年度第3回

# 地域医療セミナー

テーマ

「(仮)川本町における在宅医療  
の現状と課題」

講師

山口 拓也氏

社会医療法人仁寿会  
加藤病院 神経内科

- 日時：平成29年7月12日（水）18：00～19：30
- 場所：島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス
- 募集人数：50名（お弁当を準備しています。）
- 申込み先：メール：[career@med.shimane-u.ac.jp](mailto:career@med.shimane-u.ac.jp)⇒  
電話：0853-20-2558
- 申込み締切：平成29年7月7日（金）
- 途中入室・退室可能です。お気軽にお申し込みください。



※本講習会は文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」サテライトを持った総合診療医の養成の一環として開催致します。 地域医療支援学講座 高橋

※熱い思いをご講演いただきました。

平成29年度第4回

## 地域医療セミナー

テーマ

## 「(仮)地域の小規模多機能病院の未来」

講師

齊藤 稔哲氏

宮城県気仙沼市立本吉病院 院長

- 日時：平成29年9月22日（金）18：00～19：30
- 場所：鳥根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー
- 募集人数：50名（お弁当を準備しています。）
- 申込み先：メール：[career@med.shimane-u.ac.jp](mailto:career@med.shimane-u.ac.jp)⇒  
電話：0853-20-2558
- 申込み締切：平成29年9月18日（月）
- 途中入室・退室可能です。お気軽にお申し込みください。



地域医療支援学講座 高橋

## 地域の小規模多機能病院の未来

気仙沼市立本吉病院  
齊藤 稔哲

## 毎回してまず 自己紹介

昭和42年 宮城県仙台市生まれ  
昭和61年 東北大学医学部入学  
平成4年 同大学卒業  
山形市立病院にて小児科研修  
平成6年 東北大学医学部小児科 小児血液専攻  
平成11年 弥生村農業研修開始  
平成13年 農業研修終了  
平成18年 浜田市 市民病院  
平成24年 気仙沼市立本吉病院勤務

地域包括医療への参加  
農村医療への参加  
被災地医療への参加

## なぜ小児科を選んだのか

- 好きだなあと思ったから
- 小児血液は医療者が聞わなければ死んでしまう子どもたちを何とかしたかったから

選択は理屈ではないことが多い  
どの分野に進んでも楽しい  
自分の立っている場所を楽しむ

## なぜ、大学病院を辞めたのか？

- 社会との接点がなくなっていくと感じたから
- 日本の社会が、自分が、生きることの基本「寝て、食べて、ふれあう」事が疎かになっていると感じたから
- 生きることの基本である食べることに、直接関わりたくなかったから



## なぜ、山村で医者を再開したのか？

- 山村での生活を続けたかった
- 農業だけでは生計が成り立っていかなかったから
- 山村では地域の役割を担いつつ、農業も行うことが常識だった。自分の抱える役割は医療だった

## なぜ、行政に関わったのか？

- 浜田市は5市町村の合併計画であり、そのうち4つの自治体に無床診療所があった
- それぞれの診療所が個別に活動を続けるよりも、協働した方が、地域に医療を残せると考えた
- 地域医療の実践には予防や保護の活動が必須であった。

新しい世界に踏み出すと  
新しい風景が見えてきて  
新しい課題も見えてくる  
新しい課題に取り組むと  
新しい風景が見えてくる

## 気仙沼市立本吉病院

診療科目  
内科・小児科・外科・整形外科・精神科  
医師  
常勤医5名  
(全ての医師が全ての分野をカバーする)

## 大規模病院と小規模医療機関の役割は？

- 人材・機材・設備を投入して、重篤な疾患や稀な疾患を治す
- 医学的未知の領域の探求
- 新しい医療技術の開発
- 慢性疾患への適切な対応で重篤な疾患の発生を予防する
- 患者様や老衰等、医学では解決できない方を支える
- 地域で健やかな生活を継続するためのお手伝い

相互の協力により医療が向上する

## 小規模医療機関で診療

- 外来は生活習慣病が主体
  - 主訴がない疾患の診療
  - 主訴に対応する診療と比較すると、診療している実態が持ちにくいかもしれない
  - 難しみが大きな病期になりたくない、その難しみに添う医療ではある
- 病棟や訪問は終末期（加齢、癌）が主体
  - 寄り添った診療にやりがいを見いだすことは難しいかもしれない
  - 診療現場では治療ではなく調整が多い
  - 難しみが通る道だから、満足行く過程と結果を構築することは意味がある

## 小規模多機能病院とは？

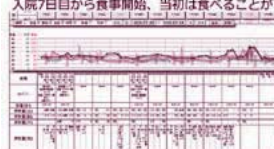
地域に起こる全ての医療・介護課題の窓口になり、外来・病棟・訪問での診療と介護・保健・福祉活動を通して課題の解決を図る地域に根ざした小規模病院のことで、  
住み慣れた地域で健やかな生活を継続できるよう活動します。

## 本吉病院の一日

## 8:00 病棟回診



全員で病棟回診  
本吉病院はチーム制（担当医師ではない）のため、全ての患者をみんなで診ることで情報共有と方針の決定は欠かせない

82才 女性  
37度台微熱、胃の痛み、嘔吐で外来受診  
既往：総胆結石で胆嚢、総胆管切除術後99才 女性  
大動脈解離にて入院→年齢・状態考慮して安静のみで経過観察  
入院7日目から食事開始、当初は食べるのが

**8:30 朝のミーティング**



前日会費でも情報共有を徹底して、医師だけでなく、病院スタッフみんなで活動しています

**9:00 外来診療**



今日はどんな患者さんが来るかな

82才 女性  
# 逆流性食道炎 # 貧血  
# 高血圧症 # 脂質異常症  
# 便秘症 # 頭痛  
# 不眠症

本日は定期受診で看護師の問診では体調は悪くないとの情報あり

処方薬  
降圧剤、脂質異常症用薬、緩下剤、鎮痛剤、睡眠導入剤、胃酸抑制剤

S)  
ごまっことないです。ちゃんと飲んでます。

O)  
BPI49/58やや高血圧維持  
体重変化なし  
ECG: n.p.  
胸腺X線: n.p.  
尿血: BUN23.3, Cre0.83, CRPO.95  
Hb: 良好  
心電図 異常なし  
腹部 平坦、軟、圧痛なし、腹せん動良好  
下肢浮腫なし  
当該以外の受診: なし

食事: 生食は食べない、量はたべられている  
使用: 軟らかい、2年前から黒色だが紫のせいだから黄くないと書かれた。  
体重: 減っていない  
E: n.p.  
睡眠: 9時半〜5時 断続トイレ1回  
居住: 娘のうちの傍  
日中は: 週1回ランニング、あとは1歳のひ孫の面倒など  
当院へは: 1/バス、歩行しつかり  
道: なし  
道: なし  
A/P)  
CRPO.95だが明らかに変化元みとめられず

# 頭痛  
パロリン、ロキソニン服用は飲んでいるときどき頭痛あるのだけれど

# 逆流性食道炎  
タケブロンにて経過良好。  
パロリン内服中のため総腸内腔が必要。

# 高血圧  
ユニシア (アムロジピン) 内服中  
自宅では測っていない、やや高め傾向。  
自宅での測定はなし。

# 脂質異常  
リビートル内服中。  
コレステロール今回は測定されていないが、総コレステロール値が、  
減速中止可能か。

# 便秘  
数日マグネシウム1500mg  
Cre0.83で高齢→腸管蠕動のリスクあり、漸減したほうがいいと判断される  
本人はあまり変えたくないとのことで、一旦継続

# 不眠  
ルネスタ内服しているが、睡眠には問題ない様子。  
睡眠に支障をきたしているとの情報提供はしておき、  
次回以降継続。

# 貧血  
平成28年4月頃から断続的に貧血症状、倦怠感なし、逆流性食道炎によるもの? フェルムカプセル内服中では貧血は改善し、  
# たん、鉄  
錠服用から長引く様、平成27年10月CTでは問題なしとのこと。今は待たせている。胸腺X線n.p.受診を中止。

**主訴のない診療への対応**

患者さんが5年後、10年後  
健康な生活が送れるか?  
健康の障害となりえる「種」がないか患者さんと一緒に探し、「種」が芽を出し、成長しないように、患者さんと一緒に生活を含めて考えていく作業が大切

**困った人を助けたいは  
とても重要**

**困らないように一緒に取り組むも  
とても重要**

**地域医療は85人いる後方医療施設  
受診者をより少なくする仕事  
対象者は住民全体**

**専門医療は21人いる病院を受診する  
患者を治療する仕事**

21人の専門医療受診者  
14人の在宅医療受診者  
13人の救急外来受診者  
8人の入院患者  
1人未満の大病院受診者  
1人未満の在宅医療受診者

Source: H England Journal of Medicine 2001;344:2021-21

4才 男児  
遊びながら歩いていたら、  
木にぶつかってしまい、右頭部打撲



耳がちよっと腫れただけで良かったね

78才 女性  
# 高血圧  
# 頭痛

高血圧で定期受診しているが、今日は頭痛があるので、夫と共に受診

カルテを見ると昨年の夏以降受診歴がない。本人は定期受診していると言うが・・・

夫は何か意味ありげな表情


本人の診察を実施後、頭痛検査の検査をする  
と伝え、本人のみ看護師と共に退室

物忘れ等なかなか夫に尋ねると  
1ヶ月くらい前から繰り返し同じことを話す  
ことが気になっていると  
夫は何かとできていないが、排除ができなくなっている様子  
夫婦二人暮らしで、夫は妻の变化に気が付いていたものの、「ほげたかな」と思いつつ  
本人が何も言っていないのでそのままにしていた  
→認知症の検査を実施して、治療開始へ

33才 男性  
工事現場で作業中、柱から飛び出た釘の頭に足を引っかけた受傷



68才 男性  
# 1 糖尿病



腿板一部損傷もあるが  
肩胛下滑液嚢への注射で疼痛の軽減あり

昨年からは今年にかけての当院外来の  
一番の変化→整形内科

8才 男児  
# ADHD

授業中は何かかイスに座っているが、課題は  
例に付き添わないと実施継続困難。友達との  
トラブル多く仲間はずれにされてしまうこと  
も多く、学校があまり好きではなくなってきた  
しまった。

発達検査では、能力は高いが、注意記憶や処理  
速度で低下みられる

コンサータを開始して授業も集中できるよう  
になりトラブル少なくなったが・・・

コンサータ増量継続していたところ、  
頭に蜂が常にまとわりついてしまう幻覚  
が発生

副作用と判断し、薬剤中止したところ、  
症状は徐々に落ち着いたが、トラブ増加  
→母は副作用あっても再開希望

幻覚が持続することは本人の発達に大きな  
悪影響を及ぼすので、ストラテラ→インチュニブ  
に薬剤変更し様子を見ているところ

患児が社会とつながっていられるようにサポート

**総合診療医の仕事は  
何となく分かったけど  
やっぱり  
何か強みがないと・・・**

誰に対する強み?  
医者仲間に対する強みではないか?

**大規模病院と小規模医療機関の役割は?**

- 人材・機材・設備を投入して、重篤な疾患や稀な疾患を治す
- 医学的未知の領域の探求
- 新しい医療技術の開発
- 慢性疾患への適切な対応で重篤な疾患の発生を予防する
- 後援者や老衰等、医学では解決できない方を支える
- 地域で健やかな生活を継続するためのお手伝い

**相互の役割が違う**

例えば・・・

- 消化器内科の先生が、ある日突然
- 今日から外科手術するから・・・
- やりながら慣れてほしいんじゃない?と一人で手術を始めたらどうする?
- それまで外科専門医で診療してきた人がある日突然
- 開業するから
- 「外科・内科・小児科連携しよう」は許される?

プライマリ・ケアは誰にでもできるという  
旧態依然とした医師の安堵からは解放されるべき

**質の担保されていない  
プライマリ・ケア担当医を雇えるのは  
そろそろやめよう**

困っている人がいる  
臓器別専門医療が充実していれば  
十分な対応ができるかもしれない  
でも  
臓器別専門医療が不足している場合  
どうする?

**適切な医療が大切**

遠方でも臓器別専門のいる医療機関に  
受診してもらう?

**医療機関を受診できない(しない)  
患者さんが増える**

「医者は医療提供することが仕事であり  
医療システムを構築するのが仕事ではない」

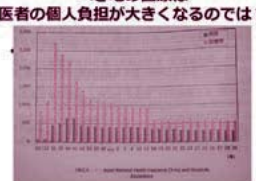
**医療システムを考えるのは国民全て  
医師は医療の専門家として  
医療システムの構築に参加を**

**本吉病院の新しい医療の方針**

提供側が規定する医療から、受け手が  
求める医療への変革

1. 地域で起こる全ての医療問題の窓口になる
2. 需要に対応するために、病院単独の活動から地域の総合力を活かす活動へ

**へき地の医療は  
医者の個人負担が大きくなるのでは?**



**へき地の医療は  
医者の個人負担が大きくなるのでは?**

**新しい地域医療システムの構築が必要**


**地域の小規模多機能病院  
の活動結果**

**年齢別外来診療件数 (平成28年度)**



年間外来患者数: 27,491件 (0歳~100歳)  
1日平均外来患者数: 111人  
高齢者患者割合: 62.1%  
14歳以下患者割合: 12.0%

**訪問診療件数・疾患分類 (平成29年4月1日現在)**



がん 5%  
呼吸器 5%  
認知症 26%  
その他 4%  
整形外科 5%  
神経・筋 8%  
脳出血 脳梗塞 22%  
心不全 循環器 11%  
薬用器械 14%

患者平均年齢 84.0歳 (10~105歳)


**入院患者疾患分類 (平成28年度)**



肺炎・呼吸器疾患 2%  
消化器疾患 8%  
神経・筋疾患 33%  
がん 6%  
整形外科 10%  
心不全・循環器疾患 11%  
腎・泌尿器疾患 12%  
脳出血 脳梗塞 14%  
薬用器械 14%  
レズ/リト 11%  
その他 8%

平均在院日数 16.7日  
患者平均年齢 83.6歳 (4~103歳)

**経口摂取困難患者に対する  
摂食嚥下訓練の効果**



評価時 経口摂取困難患者の割合  
経過時 経口摂取困難患者の割合

経口不可 経口と代替栄養の併用 経口のみ

対象: 平成26年度医療機能病院法対象患者 130名 (男性74名、女性56名)  
平均年齢: 84.4歳  
平均在院日数: 19.2日

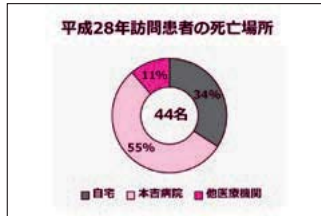
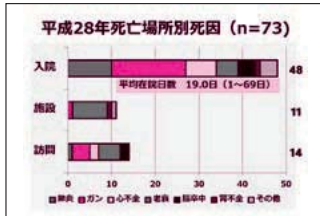
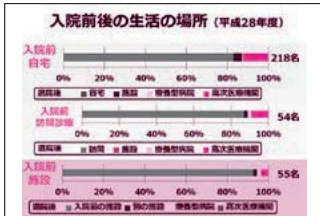
**入院における年別死因比較**



平成26年 入院 41名  
平成27年 入院 53名

看取りまでの期間  
平均 12.7日 (1~74日)  
平均 20.2日 (1~76日)

患者平均年齢  
86.1歳 (52~104歳)  
85.7歳 (51~111歳)



### 小規模多機能病院とは？

地域に起こる全ての医療・介護課題の窓口になり、外来・病棟・訪問での診療と介護・保健・福祉活動を通して課題の解決を図る地域に根ざした小規模病院のことです。

住み慣れた地域で健やかな生活を継続できるよう活動します。



本吉病院での1か月の研修で最も心に残ったのは、「患者さんの疾患ばかりにとらわれるのではなく、ひとりの人間として患者さんの人生に寄り添う医療」という考え方でした。

研修初日、院長先生からの「ここでは一人一人の患者さんに一時間かけて頂かない。まずはじっくり診察してみてください。」とお話の後、初めての外来診察に臨みました。じっくり患者さんのお話を聞くことが、無気力な患者さんへの診察を始めたものの、10分程度で問診はあっさり終わってしまいました。そこで診察が終わったことを院長先生に報告に行くと、「じゃあこの患者さんは誰と生活していて、食事は誰がしているの？住居はどんな内容？近所なら白中は何をしていて、周囲の人とはどれくらい関わっているの？この年齢ならがん検診も受けておいたほうがいいと思うけど、この人はきちんと受けてる？」と質問されました。このような「直接疾患とは関係なさそうなこと」を医療現場で聞くという発想がなかった私は目を話されず、恥ずかしい気持ちになったことを覚えています。

患者さんとの距離が近く、生活背景や事情を把握した上で診療ができるのは地域診療ならではのことでと思いますが、患者さんの事情を考慮してその気持ちに寄り添うという発想は、熱心で診療を行うにあたって不可欠なことであると思います。今後も、本吉病院で感じた気持ちを忘れずに持ちつづけ、患者さんの人生に寄り添う医師を目指して頑張っていきたいと思えます。

### 地域小規模多機能病院の目指すところ

みんなで生きる 地域づくり



平成29年度第5回

# 地域医療セミナー

テーマ

「(仮)コミュニケーション・摂食・嚥下について  
考えてみましょう

～言語聴覚士のお仕事～

講師

矢野 彩子氏

特定医療法人 壽生会 寿生苑 言語聴覚士

- 日時：平成29年10月27日（金）18：00～19：30
- 場所：島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス！
- 募集人数：50名（お弁当を準備しています。）
- 申込み先：メール：[career@med.shimane-u.ac.jp](mailto:career@med.shimane-u.ac.jp)⇒  
電話：0853-20-2558
- 申込み締切：平成29年10月23日（月）
- 途中入室・退室可能です。お気軽にお申し込みください。



地域医療支援学講座 梶木

※熱い思いをご講演いただきました。

平成29年度第6回

# 地域医療セミナー

テーマ  
「(仮)未定」

講師  
鈴木 賢二氏  
町立奥出雲病院 院長

日時：平成29年11月24日(金) 18:00~19:30

場所：鳥根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス1

募集人数：50名(お弁当を準備しています。)

申込み先：メール：[career@med.shimane-u.ac.jp](mailto:career@med.shimane-u.ac.jp)⇒  
電話：0853-20-2558

申込み締切：平成29年11月20日(月)

途中入室・退室可能です。お気軽にお申し込みください。

地域医療支援学講座 梶木

鳥根大学地域医療セミナー

## 医師のキャリアと地域医療 —私の経験を通して—

2017年11月24日  
鳥根大学 奥出雲キャンパス

鳥根大学でのご来校は、鳥根大学職員に「鳥根大学」の名称を記載したお名前を記載の上、  
鳥根大学地域医療支援学講座 梶木 賢二 宛にお願いします。

本日の内容

- 自己紹介
- キャリアに影響を与えた4つのこと  
- ラバコレ - ICU - がん薬物療法専門医 - 病院経営管理士
- キャリアの中で意識しておくべきこと  
- メンター - キャリアの広がり - 何を求めるか

自己紹介

1963年 生まれ  
1983年 鳥根県立鳥根北高等学校卒業  
1986年 鳥根医科大学卒業  
第二外科(腫瘍外科)入局  
大学入学  
大学病院、松江生協病院で外科及び腫瘍科研修  
1993年 町立仁多病院(現町立奥出雲病院)外科医長  
2003年 町立奥出雲病院外科部長  
2012年 現 院長  
2016年 現 院長

資格など

1989年 鳥根医科大学卒業  
鳥根医科大学第二外科入局(消化器科)外科  
大学入学  
1992年 腫瘍科研修  
1992年 臨床検定  
2000年 消化器科専門医、そのほか腫瘍科  
ICU(インテリジェントコントロールシステム)  
2004年 鳥根医科大学(インテリジェントシステム)  
2011年 がん臨床検定  
2016年 病院経営管理士登録

地域医療を行う医師の二つの形

総合診療医  
特定の診療・疾患に限定せず多角的に診療を行う  
どんな症状でも診て専門科に紹介し幅広い疾患を治療

専門医  
専門を軸として、そこから範囲を広げて  
専門領域のみを深し診療→幅広い疾患を治療

医師の心のありようの問題?

自分は総合診療医だから専門的な治療はしない  
自分は〇〇専門医だから、他の分野の治療はしない

皆さん、どのような気持ちで取り組んでいますか?

奥出雲病院での現在の診療

外科外来 週3回  
外科手術 週2回程度  
入院患者 15名程度(医師1名)：  
術前術後、化学療法、緩和治療、など  
その他 ・ 腫瘍 (腫瘍科、腫瘍外科、外科)  
・ 感染管理 ICUとしてラウンド、非常時の対応  
・ 産科医

現在の業務 病院長として

意思決定  
1. 意思を押し通す環境に置き換えること  
2. 資源配分 人的、経済的資源の配分を決定  
3. 交渉 職員、外科と話し合いの重要性

情報収集と伝達  
1. 外科から情報を集め、内科に伝える  
2. 内科の情報を外科に伝える

対人関係  
1. 組織のシンボルとして振る舞う  
2. リーダーシップをとり結果を管理する

キャリアに大きく影響を与えた4つのこと

- ラバコレの話
- INFECTION CONTROL DOCTORの話
- がん薬物療法専門医の話
- 病院経営管理士の話

ラバコレの話

腹腔鏡下胆嚢摘出術

1987年 フランスで第一例目  
1990年 日本で第一例目  
1991年 松江生協病院で第一例目  
1992年 松江生協病院責任(2年連続)  
山根病院では第一の生協病院だった  
在任2年間で約300例の腹腔鏡下胆嚢摘出術にはいる  
うち約100例を執刀

自らの腹腔鏡手術の基盤となった  
のちの胃切除、大腸切除、ヘルニア手術向けへ発展

1992年当時の状況

山根病院で実施しているのは松江生協病院だけだった  
山根各地から医師が集まる  
病院としては年間200例、2年間で400例の腹腔鏡下胆嚢摘出術  
術者 約100例/2年間  
助手 約200例/2年間  
看護、術者として1例、助手として2例のICを2年間経験できた

なぜこれが自分にとっての重要な経験となったか?

- 医師になって4-8年目で集中的に腹腔鏡手術を  
シャワーのように浴びることができた
- 新たな技術の威力を目の前で実感した
- のちの腹腔鏡手術の発展、応用の基本の基となった

当時は遠慮しなかったが、あとで振り返ると  
外科医としての大きな最初のターニングポイントだった



### ICD (INFECTION CONTROL DOCTOR) の話

2000年、第1回感染対策の研究会に出発し、第二外科の先輩がICDとして指導的に活躍しているのを目にした「どうしたらそんな風になれるのか?」「その風になってやりかえすればできる。」

### 日本の感染対策の経緯

1986年 日本環境感染学会設立  
1990年 日本初の感染制御ガイドライン発行  
1996年 診療報酬に院内感染対策加算導入(2000年 未実施済へ)  
2000年 ICD制度発足  
日本看護協会 感染管理認定管理師コース開始  
2004年 感染対策は入院基本科認定の要件に  
2010年 新たな加算に、ICDの活動を規定

### INFECTION CONTROL DOCTOR とは

ICD協議会(当初は学会合同、現在23学会)による認定  
4年以上のM.D.またはPh.D.  
・感染学会での活動実績  
・講習会参加  
ICDの役割  
・サーベイランス  
・院内感染対策の立案、実施、評価、見直し  
・職員への教育、啓発  
・アウトブレイク時の対応  
・伝染性感染症患者の対応

### 奥出雲病院での経緯

1994年 町立に多病院(奥出雲病院)担任「感染対策委員会委員長」を命じられる  
1999年 厚生労働省「院内感染対策講習会」参加  
2002年 ICD認定 院内感染対策委員会委員長として現在まで活動

### ロールモデルに使えるという先見を

2000年、第1回感染対策の研究会に出発し、第二外科の先輩がICDとして指導的に活躍しているのを目にした「どうしたらそんな風になれるのか?」「その風になってやりかえすればできる。」

### なぜこれが自分にとって重要な経験となったか?

1. 初めての外科以外の分野の経験
2. MENTORの重要性の自覚
3. 「管理」の初体験

### がん薬物療法専門医の話

消化器科専門医取得の心算、次にやるべきことを整理していた...  
がんの科、化学療法、緩和治療を一人でやっている中、  
○第2の専門を専攻したい  
○がん患者の増加  
○化学療法の発展: 日本では外科医が行うことも多い化学療法が見よう見まねでは学べないのではないか  
マスコでは「がん薬物療法専門医が少くない」と言っている  
がん薬物療法専門医を目指そう!!

### がん薬物療法専門医とは

日本臨床腫瘍学会(JSOC)の育成を目的とする専門医育成が日本のがん診療のレベルを向上させる  
「腫瘍学専門医」(ONCOLOGIST)「がん治療の司令官」  
JSOCの求めとする専門医  
1. 薬物療法に関する十分な基礎知識(非腫瘍)  
2. 腫瘍学が広く深い知識である  
3. 副作用に適切に対応できる  
4. 腫瘍学が実践できる  
5. 緩和ケアができる  
6. がん治療に関するセカンダリポジションができる

### がん薬物療法専門医を目指して

2007年頃からどうすればできるかを探り始めた  
日本臨床腫瘍学会ホームページでは、研修が必要 認定施設での研修が必要  
鳥取大学大学院のホームページをみて  
2008年1月、がんプロフェッショナル養成プログラム、腫瘍学(化学療法)研修コースなるものを発見(この時からスタート)  
早速学歴を調査、「本当にまいていいのかな?」

### 受験資格

- (1) 2年以上継続して学会員であること
- (2) 専攻がん(腫瘍)の研修(研修指導医)を7年以上  
がん治療に関する業績  
・論文(腫瘍学)に著した論文1篇以上  
・日本臨床腫瘍学会での発表  
・教育セミナーへの出席
- (3) 「腫瘍認定施設」での学会が「キョウム」に3年以上の臨床研究
- (4) 基本となる学会の認定施設あるいは専門医  
日本内科学会、日本外科学会、日本産婦人科学会など

### 鳥取大学病院での研修

2009年4月から2009年6月の週3日  
呼吸器科・化学療法科・内外科・放射線科  
消化器科・外科・内外科・放射線科など  
→ 奨励金も研修費も 30万円ほど  
奥出雲病院の研修は週3日の外科代部の協力を得て:  
手術: 週一(個人科、整形外科も)、  
読書: 週一度、内外科、読書

### 臨床腫瘍学を学んで得たもの

○腫瘍学そのものの知識  
特に基礎の重要性と臨床試験について  
○腫瘍学が広く深い知識である  
○副作用に適切に対応できる  
○腫瘍学が実践できる  
○緩和ケアができる  
○がん治療に関するセカンダリポジションができる

### 施行中の化学療法

胃癌、食道癌、大腸癌、肝臓癌、乳癌  
肺癌  
肺癌、造血器(リンパ腫、骨髄腫)、泌尿器  
計 約 20例

### 病院経営管理士の話

日本では病院経営管理士(院長)は医師でなくてはならない(医業法第10条)  
承認では病院経営は専ら医師が管理で、MBA取得などが求められる  
でも日本では病院「経営」を学んだ院長は少ない日本の現在の医療経営は非常に難しい時代一歩先の知識しよう!

### 病院経営管理士とは

日本病院協会が行っている高度専門職職能認定を受けた人のための制度  
・医療部課長(診療科、看護部、検査部など)、  
・安全管理、施設管理、社会関係、など)  
・経営管理(経営戦略、経営管理、マーケティングなど)  
・経営管理  
・特別支援(病院維持、水産関係など)  
・卒業論文  
16年、計16回のスクーリング、自学自習、レポート提出、試験、卒業

### 病院経営

病院経営の知識を身につけ、病院長として地域に貢献しよう。  
病院経営とは、  
○金儲けのことはありません。  
○地域住民、患者のためにいかに病院を運営してゆくか  
からのミッションをいかに実現するかを  
考え、組織を統括し、実践すること  
現在勉強中、来年度に終了する予定。

### メンターについて

MENTORとは  
古代ギリシャのホメロスの叙事詩「オデュッセイア」の登場人物オデュッセウスの王子の良き指導者、理解者、支持者  
メンター(MENTOR)から  
現代では、権威を示して促させるのではなく  
ロールモデルを示し、成功した時の喜びを語る支持者、企業などで制度として取り入れられている。

### 勝手に心の中で「MENTOR」を指名してみたら?

自分になくてもいい、相手に伝えなくてもいい、  
一人でもなくてもいい、何人いてもいい。  
「青い」MENTOR いることは大いに役立つ、自分自身でいかにその先輩を見て、感じて  
その存在そのものが、自分が進む道を照らしてはたり、助けてくれる。そんな人が見つかるというのです。

### 視界は広がってゆく

最初に入社した分野に一生懸命取り組む  
他の分野も勉強する必要が出てくる  
場合によっては新たな専門に取り組む  
さらに全く別の分野の勉強が必要になることもある

### 直線的なキャリアと広がりを持ったキャリア

医学部 → 研修医 → 腫瘍科の専攻 → 腫瘍科専門医 → がん薬物療法専門医  
腫瘍科専門医 → がん薬物療法専門医  
がん薬物療法専門医 → がん薬物療法専門医

### 直線的なキャリアと広がりを持ったキャリア

医学部 → 研修医 → 腫瘍科の専攻 → 腫瘍科専門医 → がん薬物療法専門医  
腫瘍科専門医 → がん薬物療法専門医  
がん薬物療法専門医 → がん薬物療法専門医

### キャリア形成に関して

専門医か、総合診療か?  
職業にはこのような二択か?ではない  
専門を持ちながら、それを軸に広げてゆくのも多くの先輩が通ってきた道  
メンターを見つけてみよう。  
一人である必要はない。

### 人は死ぬ時に何を望むのか?

迷惑をかけたくない  
人の役に立てたい  
願ったことが実現して貰いたい  
一人ひとりが、本当に人生の満足を得られる?  
いかに社会のために貢献できるか  
不眠不休、自己犠牲にすることではなく、人のために何をしよう

### 終わりに

様々な挑戦を、そのことで視界が広がります。  
自分は何がしたいか、も大事だが、  
誰が求められているか、はもっと大事。  
その求めに従って、地域医療に貢献できたら  
幸せだと思っています。

平成29年度第7回

# 地域医療セミナー

テーマ

「(仮)大規模総合病院における  
総合診療の魅力」

講師

増野 純二氏

鳥根県立中央病院 地域医療科部長

- ・ 日時：平成29年12月15日（金）18：00～19：30
- ・ 場所：鳥根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス1
- ・ 募集人数：50名（お弁当を準備しています。）
- ・ 申込み先：メール：[career@med.shimane-u.ac.jp](mailto:career@med.shimane-u.ac.jp)⇒  
電話：0853-20-2558
- ・ 申込み締切：平成29年12月11日（月）
- ・ 途中入室・退室可能です。お気軽にお申し込みください。



地域医療支援学講座 梶木

※熱い思いをご講演いただきました。

平成29年度第8回

## 地域医療セミナー

テーマ

# 「生活を診る」

～作業療法のスペシャリストが熱く語る  
高齢者や障害者の支え方～

講師

**森脇 繁登 氏**

島大病院 リハビリテーション部 主任作業療法士

- ・ 日時：平成30年1月23日（火）18：00～19：30
- ・ 場所：島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンスⅠ
- ・ 募集人数：50名（お弁当を準備しています。）
- ・ 申込み先：メール：[career@med.shimane-u.ac.jp](mailto:career@med.shimane-u.ac.jp)  
電話：0853-20-2558
- ・ 申込み締切：平成30年1月17日（水）
- ・ 途中入室・退室可能です。お気軽にお申し込みください。



地域医療支援学講座 澤田

※熱い思いをご講演いただきました。

平成29年度第9回 地域医療セミナー

# 津和野町における 総合診療の魅力

講師 飯島 献一 氏  
津和野共存病院 副院長

日時 平成30年2月16日(金) 18:00~19:30  
場所 島根大学医学部講義棟1F国際交流ラウンジ  
申込先 ☎: 0853-20-2558

締切 平成30年2月9日(金)  
※事前申込された方にはお弁当をご用意しております。

地域医療支援学講座 澤田




### 本日の内容


- 津和野町の紹介
- 津和野共存病院紹介
- 地域医療実習カリキュラム
- 地域包括ケアシステム
- 認知症対策
- 看取りの文化
- 総合診療とは、地域医療とは

### 津和野町の医療の歴史





### 津和野町の医療の歴史


### 津和野共存病院

現在、常勤内科医3名、放射線科医1名

**診療科目**  
常勤: 内科 神経内科 循環器内科 放射線科  
非常勤: 整形外科 小児科 耳鼻咽喉科 産婦人科

一般病床 50床(うち地域包括ケア病床27床)  
療養病床 49床(休床中)


### 在宅や施設の訪問診療にも 重点をおき取り組んでいます。

**訪問診療**  
在宅: 約50名(月に1回あるいは2回)  
特別養護老人ホーム: 2施設、約100名(週1回)  
認知症高齢者の入所されているグループホーム: 3施設、約40名(月2回)

**事業内容**  
一般診療 脳ドック 肺ドック 原簿健診 公費

**健診**  
特定健診 学校健診 産業医

### 病院長の須山医師、副院長の飯島医師は島根大学医学部の臨床教授で指導医でもあります。島根大学で指導医講習を受け、1分間指導法を取り入れています。



全職員に研修し、いつでも実施することができるよう、一歩前進です。指導医講習会も好評です。

**職員名札表**



### 津和野共存病院

介護老人保健施設せらみら

連携をはりながら地域の皆様に医療介護サービスを提供しています

### 島根大学クリニカルスキルアップセンター出張研修



島根大学スキルアップセンターの狩野先生にも年数回当院に来ていただきBLSなどの指導を受けています。

### 糖尿病友の会の支援をしています



クリスマスパーティーの開催

当院は救急指定病院ではありませんが日中は救急車の受け入れもしています



### 津和野共存病院地域医療実習カリキュラム

### 地域包括ケア

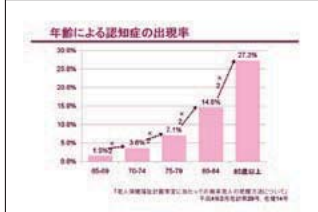
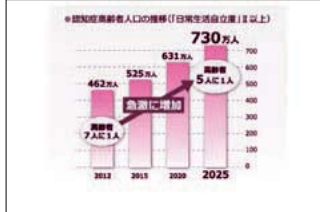
目標生活圏域 (30分圏で結びつけられる圏域)

地域包括ケアシステム

### 地域包括ケアシステムのコンセプト

目標生活圏域(30分圏)を軸として

地域包括ケアシステム



認知症講演会

- 全町民を対象に、認知症を正しく理解してもらうために、H19年度より毎年実施。
- H24年度の実施状況(各公民館へ出前講座)

会場	参加者	内容・講師
津和野公民館	29名	【テーマ】「認知症は怖い！」
東条公民館	30名	【講師】一般の中で生きて大変な事をやるとは...
谷川公民館	23名	【講師】認知症の予防と治療
本郷公民館	15名	【講師】認知症の予防と治療
津和野公民館	22名	【講師】認知症の予防と治療
津和野市民センター	26名	【講師】認知症の予防と治療
高津公民館	18名	【講師】認知症の予防と治療
藤原公民館	24名	【講師】認知症の予防と治療

**津和野町の認知症対策**

- 認知症講演会：H19年度～年1回
- 認知症サポーター養成講座：H19年度～
- つわのオレンジの会：H23年度～奇数月
- 認知症コア会議：H23年度～偶数月
- 徘徊SOSネットワーク：H28年度見直し2名登録
- 津和野介護者の会、男談サロンつわの：年数回

認知症講演会での寸劇と介護家族の談話

『劇団だいこんの花』製作の寸劇を津和野町代表事業所スタッフで披露

『津和野介護者の会』に依頼し、認知症を体験するために地域で友人あつことの大変な話を披露

**認知症サポーター養成講座**

○対象者

- 【住民】自治会、老人クラブ、民生委員 等
- 【職域】山陰合同銀行、西中国信用金庫
- 【学校】津和野中学校

○サポーター数：延べ、1,739名  
OH27年度～登録制 表80名

○対象者に応じた内容で1時間～1時間半

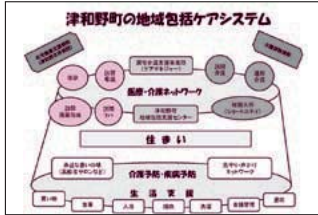
**認知症キッズサポーター養成講座**

**つわのオレンジの会**

- 平成23年度より、認知症サポーターと地域包括支援センター保健師、町内の介護支援専門員、グループホーム、デイサービス職員、キャラバンメイトが集まり、事例検討、グループワーク、認知症に関しての勉強会などを行っている。
- 事業所ごとの取り組みの情報交換や療養困難事例に対する意見交換ができる重要な場となっている。

**今後の取り組み**

- キャラバンメイト連絡会を開催し、キャラバンメイト及び認知症サポーターの活動支援を行う
- モデル地区を設けてiPadを活用した認知症スクリーニング検査を行い、早期発見、早期対応を試みる
- 地域ケアバス、認知症サポーター活躍bookの作成
- 認知症地域支援推進員の養成
- 認知症カフェの開催
- 認知症対策を通じて地域包括ケアの構築



**「長寿遺伝子Sir2をオンにする」生き方**

【食事】 腹八分目

- コラーゲン補給して必要な栄養はきちんと摂る
- 魚の心臓、ササミ、リゾ、プロポリス、オリーブオイル
- フレキシブルなスケジュールを毎日見直し続ける

【運動】 毎日適度の運動

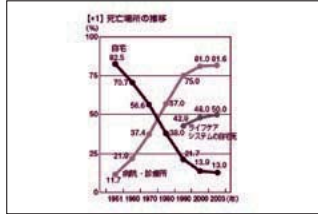
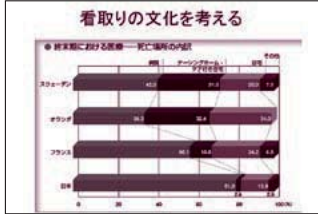
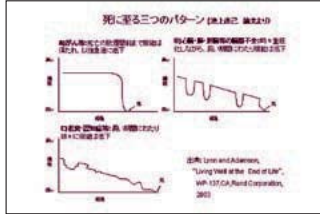
- 適度な運動を毎日行わないことが大切
- 骨は筋力の低下から弱くなる。1日1万歩を目標に歩く
- 認知症サポーターやボランティア等と一緒に行うと運動量も歩く

【メンタルケア】 よくよく思い悩まない

- 「よくよく」悩むことは長生きの天敵
- 東洋的、日本的ジャパニズム
- 積極的・人文的交流も、男と女

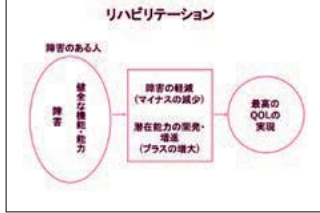
**いのちを大切にすること**

- 自分を大切にしてください
- 家族を大切にしてください
- ふるさとを大切にしてください
- 人を思いやって、誰かのために時間を使ってください
- 大きな夢をもって人ととは違う何かを見つけてください



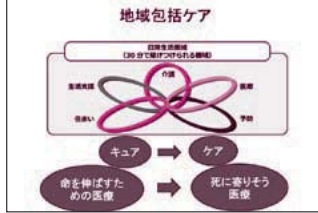
**看取りの文化**

- 戦後、日本人は経済復興に集中した結果、家庭生活が犠牲となり、着飾りの文化が消失していった。
- 病院での死が90%を超えており、医療技術の進歩とともに、無意味な延命治療もなされている。
- 少子高齢化の急速な進行により、日本が少産多死社会となり、後期高齢者のように見えるが、改めて死に向き合い考え直す時期を迎えている。
- 意識する例、される側の死生観がある程度共有しながら看取りの文化を築き上げていく。
- 医療、介護、福祉の連携をはかり、住み慣れた地域で安心して死を全うできる社会を作り上げていく。



**地域包括ケアとは**

- 生活習慣病を克服する
- 寝たきりにならない、寝かせきりにさせない
- 認知症と上手につきあう
- 地域リハビリテーション
- 看取りの文化を築き、天寿を全うできる地域



**今後の地域医療**

- 津和野町は農村医療(すなわち地域医療)発症の地です。
- 医療法人橋井堂は旧厚生連からの津和野に医療の灯りを消してはならないという強い思いから引き継がれた。
- 高度医療は急激に発展しましたが、そのための弊害も起きてきている。

**今後の地域医療**

- 今こそケアからケアへの発想の切り替えが必要で、住民一人ひとりが認知症ケアを意識しながら、看取りの文化を構築していくことが地域包括ケアにつながるのではないかと考える。
- 津和野町はその地域包括ケアの最先端をすすんでいけるのではないかと期待を寄せて皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

**地域で育つ医療人**

- まずは地域を知る
- 多くの人と交流
- 地域医療とは
- 自分の目指す医療とは
- 医療人としての技量、知識を提供
- 多くの人生経験や生きるすべを学ぶ



第13回（平成29年度）

## 総合診療ワークショップ

日時：平成29年6月17日（土）14:00～17:00

場所：島根大学医学部講義棟1階国際交流ラウンジ

テーマ「人生の締めくくりをみんなで考える」

### Session1

- ①意思決定支援とACP（アドバンス・ケア・プランニング）
- ②在宅看取りの現状と展望
- ③絵本「このあと、どうしちゃおう」

### Session2

- ①ロールプレイ「おうちに帰ろう」

### Session3

- ①フィードバック及び意見交換等
- ②まとめ

講師：飯南町立飯南病院 病院長 角田耕紀 先生  
飯南病院スタッフ・飯南町スタッフ

【主催・申し込み先】総合診療医育成ネットワーク・島根大学医学部地域医療支援学講座  
電話：0853-20-2558 Mail：career@med.shimane-u.ac.jp FAX：0853-20-2563

※6月12日（月）までに氏名・所属・連絡先TEL・Emailを連絡ください。

【共催】

一般社団法人しまね地域医療支援センター・島根県・島根大学医学部・えんネット  
※本講習会は文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業“リ-ファインド”を持った総合診療医の養成」の一環として開催致します。

託児申込み締め切り：6月5日（月）※申込先は上記と同じ

託児  
あり



※熱い思いをご講演いただきました。

第14回

# 総合診療ワークショップ

家庭医療Ver.

# ドクター G

Live

## Session 1 鑑別診断

複雑に絡み合った症候から診断を導き出せ！

—あなたが診れるようになりたいのは、疾患？人？それとも地域？—

医学だけでは辿り着けない正解に  
どこまで総合診療医として寄り添えるか

## Session 2 患者に寄り添う意思決定



講師 上野 伸行 先生  
島根県立中央病院 総合診療科  
家庭医療専攻医

他、県内家庭医療専攻医や指導医

|| とき 10月28日(土)

14:00~17:30 (受付13:30~)

18:30~ 意見交換会

|| ところ 島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー

|| 申込先 島根大学医学部地域医療支援学講座

TEL:0853-20-2558

MAIL:career@med.shimane.u.ac.jp

※熱い思いをご講演いただきました。

# 平成29年度 フラッシュアップ講習会 in出雲

EBMをより深く学ぶ！出雲EBM workshop 2017

日時：平成29年6月3日（土） 13:00～18:30

会場：島根大学医学部講義棟 1階「国際交流ラウンジ」

※演習の際には看護棟 2F情報科学演習室へ移動して行います。

対象：指導医及び専攻医・研修医

講師：南郷 栄秀 氏

東京北医療センター総合診療科医長

内容【Part1】「臨床現場でのPubMed・二次資料の使い方」

【Part2】「原著論文の批判的吟味」

申込：氏名・所属・連絡先（TEL・e-mail）を下記連絡先までご連絡ください

※申し込み締め切り5月22日（月）

南郷先生Profile

1973年東京都品川区生まれ

1998年東京医科歯科大学卒業

虎の門病院で研修後、2002年に虎の門病院分院内科総合診療科に勤務

2007年に東京北社会保険病院（現 東京北医療センター）に勤務

2007年に東京医科歯科大学医学部臨床講師を兼務

2009年に東京医科歯科大学医学部臨床准教授に就任

全国で「正しいEBM」の普及活動を行う

【主催・申し込み先】総合診療医育成ネットワーク・島根大学医学部地域医療支援学講座

電話：0853-20-2558 Mail：career@med.shimane-u.ac.jp FAX：0853-20-2563

【共催】一般社団法人しまね地域医療支援センター・島根県・島根大学医学部・えんネット

※本講習会は文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業”リ-ポイント”を持った総合診療医の養成」の一環として開催致します。

託児あり

託児あり



※熱い思いをご講演いただきました。





## おわりに

皆様のおかげで地域医療支援学講座は8度目の春を迎えます。私にとりましては、本講座に赴任してからの2年は時の流れが速く感じる中で、非常に多くの学びの機会を得ることができました。特に、将来、島根の地域医療を牽引してくれる学生さんや若手医師達と切磋琢磨し、たいへん楽しく貴重な経験となりました。平成29年度も、島根県および全国の病院関係者、行政、保健所、住民の皆様ほか、本当に多くの方々に講座の取り組みにご協力、ご指導賜りました。ここに講座スタッフ一同、心より御礼申し上げます。多くの方々と意見交換させて頂く中で、顔が見える形で、連携や協力ができるようになってまいりましたことが、講座にとってなによりの財産ではないかと思っております。これからも多くの関係者の皆様に、足を運んで頂けるような講座を目指していきたくと考えております。

地域医療をめぐるのは、地域包括ケアシステムの構築、人生の最終段階における医療、医師の地域偏在、地域医療構想の具体化、医師の働き方改革、人生100年時代など、多くの課題が目の前にあることはいうまでもありません。また、医学教育分野別認証制度、新専門医制度開始、医学モデルコアカリキュラムの改訂、総合診療医育成など、医学生、研修医を取り巻く教育・研修の領域も、大きなターニングポイントを向かえております。このような状況で、講座がこういった取り組みを進めていくのかについて、皆様からのご意見を頂戴しながら、真摯に邁進していく所存です。

微力ではございますが、今後とも引き続きご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

ほころぶ梅の花を眺めながら

平成30年3月1日

島根大学医学部地域医療支援学

佐野千晶

島根大学医学部地域医療支援学講座  
平成29年度報告書

---

発行日 ■ 平成30年3月

発行者 ■ 島根大学医学部地域医療支援学講座

教授 谷口 栄作

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話(ダイヤルイン) 0853-20-2558 / FAX 0853-20-2563

E-mail : career@med.shimane-u.ac.jp

URL : <http://www.communityshimane.jp/>

---

印刷・製本 ■ 今井印刷株式会社

〒683-0103 鳥取県米子市富益町8

---